ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　109　号
２０１４．７．14

目　次

2014年度　北海道考古学会第51回総会略報…… 1
2014年度　北海道考古学会研究大会報告…… 6
遺跡見学会のご案内…… 7
月例研究会のお知らせ…… 8
北海道考古学会21～50年のあゆみ…… 9
事務連絡……28
入退会者のお知らせ……28
会費納入についてのお願い……28
会誌編集委員会からのお知らせ……28
その他……28

2014年度　北海道考古学会第51回総会略報

５月10日に、北海道大学学術交流会館において本年度の定期総会が開催されました。総会は、会員数360名に対し、本人出席45名、委任状出席96名の合計141名と、成立要件である会員数の５分の１以上の出席により行われました。議長には第７地区の佐藤和利会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、原案通り承認されましたので報告いたします。

１号議案　2013年度会務報告

（1）事業報告

ア　第50回総会・研究大会

期　　日：2013年５月11日
場　　所：北海道大学学術交流会館
総　　会：2012年度会務報告、2013年度会務計画案
研究大会：テーマ「先史時代の植物利用戦略」

イ　運営委員会

回数	開催日	主たる議題
第１回	５月19日	運営委員業務担当など
第２回	６月15日	遺跡見学会・編集委員会・特別委員会など
第３回	７月20日	遺跡見学会・遺跡報告会など
第４回	９月21日	遺跡見学会・50周年記念講演・遺跡報告会・だよりなど
第５回	10月19日	遺跡報告会・研究大会・だよりなど
第６回	11月16日	遺跡報告会・研究大会など
第７回	12月14日	研究大会・だよりなど
第８回	１月25日	研究大会・50周年記念特別委員会・総会など
第９回	２月15日	研究大会など
第10回	３月15日	総会など

ウ　月例研究会

第１回：７月20日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①田代雄介氏（むかわ町教育委員会）
「むかわ町穂別富内123番地出土の鉄鉾について」
第２回：９月21日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W309教室）
①大島直行氏（伊達市噴火湾文化研究所）
「「なぜストーンサークルは円いのか」をレビューする」
第３回：10月19日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

①青野友哉氏（伊達市噴火湾文化研究所）
「弥生人と続縄文人の長距離交流の実態（予察）－イモガイ製貝輪の年代的検討－」
第４回：11月16日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①冨樫那美氏（早稲田大学大学院）
「副葬土器を通してみた北海道における縄文時代晩期と続縄文時代前半期の墓制」
第５回：１月25日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①高倉　純氏（北海道大学埋蔵文化財調査室）
「後北B～C１期の遺跡形成と石器群」
②三谷智広氏（洞爺湖町教育委員会）
「近世アイヌ文化期における貝塚機能の推定」
第６回：２月15日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①永谷幸人氏（伊達市埋蔵文化財専門委員）
「近世アイヌ文化期のウスコタン－有珠湾周辺遺跡の遺構変遷にみる人々の暮らしと災害の影響－」
②大坂　拓氏（宮城県教育委員会）
「続縄文人南下ルートの変動とその背景」
第７回：３月15日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①山戸大和氏（札幌学院大学）
「擦文文化の集落構造について」
②富塚　龍氏（札幌学院大学）
「置戸町勝山２遺跡出土細石刃核について」

エ　遺跡見学会

期　日：８月31日（土）
場　所：余市町・小樽市
テーマ：余市町・小樽市の遺跡・博物館を巡る
参加者：43名

オ　遺跡調査報告会

期　日：12月14日（土）
場　所：北海道大学学術交流会館講堂
内　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑

カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

106号：７月10日発行
107号：11月10日発行
108号：３月３日発行

キ　学会ホームページ

2014年３月まで（12ヶ月間）更新回数：27回

ク　会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第50輯の発行（2014年３月発行　500部）

ケ　特別委員会の活動

遺跡保護特別委員会
北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会

(2) 2013年度収支決算報告

収入

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	増 ▲減	備　考
会　費	会費	1,400,000	1,817,000	417,000	5,000円×362件、3,500円×２件
事業収入	研究大会収入	100,000	86,000	▲ 14,000	研究大会資料集販売 1,000円×86部
	遺跡見学会収入	160,000	195,800	35,800	4,000円×43名 昼食代700円×34名
	50周年記念大会収入	100,000	85,000	▲ 15,000	50周年記念大会資料集販売 1,000円×85部
	遺跡調査報告会収入	100,000	108,000	8,000	遺跡調査報告会資料集販売 1,000円×108部
	会誌等販売収入	60,000	79,430	19,430	会誌・資料集販売
	小　計	520,000	554,230	34,230	
広告料収入		0	0	0	

雑　　入		396	10,003	9,607	
繰　越　金		2,157,604	2,157,604	0	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特 会 収 入	特別会計収入	0	0	0	
合　　計		4,078,000	4,538,837	460,837	

支出

項　　目	費　　目	予算額（A）	決算額（B）	残(▲超過)額	備　　考
事 業 支 出	研究大会費	460,000	370,590	89,410	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	120,000	135,087	▲ 15,087	貸切バス等／振込手数料
	研究会費	50,000	49,030	970	案内発送、研究会共催費、発表者交通費
	50周年記念大会費	250,000	506,648	▲ 256,648	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡調査報告会費	350,000	367,860	▲ 17,860	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	750,000	945,840	▲ 195,840	第50輯500部／振込手数料
	だより印刷費	160,000	139,945	20,055	106号・107号・108号／振込手数料
	ホームページ費	50,000	29,352	20,648	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　　計	2,190,000	2,544,352	▲ 354,352	
事 務 支 出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	125,000	140,320	▲ 15,320	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	50,000	11,459	38,541	文房具代・コピー代等
	通信費	200,000	187,450	12,550	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃金	75,000	35,000	40,000	会誌･だより等の発送･その他事務処理（1,000円/h×35h）
	小　　計	455,000	374,229	80,771	
特 別 支 出		20,000	28,500	▲ 8,500	会費返金分
予　備　費		1,413,000	0	1,413,000	
合　　計		4,078,000	2,947,081	1,130,919	

2013年度決算

項　　目	費　　目	予算額（A）	決算額（B）	差引額(B－A)	備　　考
	収入総計	4,078,000	4,538,837	460,837	
	支出総計	4,078,000	2,947,081	▲1,130,919	
決算額差引	収入総計（B）－支出総計（B）			1,591,756	

2013年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏・斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	2005年５月29日10,000円送金 2006年３月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	2008年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	2008年３月31日10,000円入金
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立（過年度支出分補填）
	保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立（過年度支出分補填）
合　　計				1,520,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,443,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,283,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,223,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		983,000	
	50周年記念研究大会費	250,000		733,000	
合　　計		787,000			
基　金　残　高				733,000	

(3) 2013年度監査報告

北海道考古学会の2013年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2014年４月23日　監査委員　千葉英一　㊞
2014年４月23日　監査委員　園部真幸　㊞

2号議案　2014年度会務計画

(1) 事業計画案

ア　基本方針

①北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。

②考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。

③だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。

④会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

イ　2014年度事業計画

①研究大会

日　　時：2014年５月10日(土) 10：00－17：00
場　　所：北海道大学学術交流会館
テ ー マ：「盛土遺構を掘る」
事例報告：福井淳一氏・大泰司　統氏・影浦　覚氏・工藤研治氏・山谷文人氏・石川　朗氏・村本周三氏・辻本裕也氏
討　　論：司会　阿部明義氏

②遺跡見学会

日　　時：８月予定

③遺跡報告会

日　　時：2014年12月13日(土)
場　　所：北海道大学文系共通講義棟６番教室

④月例研究会

開　　催：年８回、各回15時開始（予定）
時　　期：６月21日、７月19日、９月20日、10月18日、11月15日、１月24日、２月21日、３月21日（予定）

⑤会誌「北海道考古学」第51輯の発行

発　　行：年１回
時　　期：2015年３月　500部発行

⑥連絡誌「北海道考古学会だより」の発行

発　　行：年３回（第109号、第110号、第111号）
時　　期：７月、11月、２月

⑦ホームページの管理運営

(2) 2014年度予算案

収入

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会費	1,600,000	1,817,000	▲ 217,000	5,000円×320件
	研究大会収入	90,000	86,000	4,000	研究大会資料集販売 1,000円×90部
	遺跡見学会収入	200,000	195,800	4,200	4,000円×50名（貸切バス１台）
	遺跡調査報告会収入	100,000	108,000	▲ 8,000	遺跡調査報告会資料集販売 1,000円×100部
	会誌等販売収入	80,000	79,430	570	会誌・資料集販売
	小　計	470,000	469,230	770	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		244	10,003	▲ 9,759	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
繰 越 金		1,591,756	2,157,604	▲ 565,848	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特 会 収 入	特別会計収入	0	0	0	
合　計		3,662,000	4,453,837	▲ 782,078	

支出

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	残(▲超過)額	備　考
事 業 支 出	研究大会費	450,000	370,590	79,410	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	145,000	135,087	9,913	貸切バス等／振込手数料
	研究会費	60,000	49,030	10,970	案内発送、研究会共催費、発表者交通費
	遺跡調査報告会費	390,000	367,860	22,140	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等

	会誌印刷費	780,000	945,840	▲ 165,840	第51輯500部／振込手数料
	だより印刷費	265,000	139,945	125,055	109号・110号・111号／振込手数料
	ホームページ費	7,000	29,352	▲ 22,352	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　計	2,097,000	2,037,704	59,296	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	150,000	140,320	9,680	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	25,000	11,459	13,541	文房具代・コピー代等
	通信費	200,000	187,450	12,550	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃金	50,000	35,000	15,000	会誌･だより等の発送･その他事務処理（1,000円/h×50h）
	小　計	430,000	374,229	55,771	
特別支出		20,000	28,500	▲ 8,500	
予備費		1,115,000	0	1,115,000	
合　計		3,662,000	2,440,433	1,221,567	

2014年度北海道考古学会基金会計

項　目	費　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　考
基　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏・斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	2005年５月29日10,000円送金 2006年３月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	2008年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費等積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立（過年度支出分補填）
	保存対策費等積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立（過年度支出分補填）
合　計				1,520,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,443,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,283,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,223,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		983,000	
	50周年記念研究大会費	250,000		733,000	2013年10月支出
合　計		787,000			
基　金　残　高				733,000	

３号議案　運営委員の補充について

平成25年度中に運営委員１名が退任したため、北海道考古学会会則第６条および規則２－１第２条・第３条に基づき、委員の補充を行う。運営委員候補は平成25年度の改選時に行った会員による推薦と投票の結果に基づき、以下の者といたします。

運営委員

澤井　玄氏

４号議案　学会賞の創設と規則の制定について

北海道考古学会は2013年に創立50周年を迎えたことから、これまで当会の発展に貢献された方への顕彰と、今後の若手研究者の育成を目的に学会賞を創設します。

あわせて賞の授与に関する規則を制定します（別紙）。

１．北海道考古学会賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野を含む）の研究，もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体の功績を称える。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野を含む）の研究，もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体（所属会員の有無を問わない）。

２．北海道考古学会奨励賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野を含む）の研究に大きく貢献した若手研究者の研究活動を奨励する。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）において優れた研究を行い，将来の発展に貢献すると期待される満40歳未満（受賞年の４月１日現在）の会員。

５号議案　60周年記念事業に向けた積立ての開始について

記念事業等の積立てはこれまで直前の年度から行っていましたが、この方法を見直し、長期間かけた積立てとすることで財務の安定を図ります。基金の名称は「60周年記念研究大会積立金」とし、実際の積立は2015年度から行います。

（附）４号議案説明資料

学会賞規則（案）

（目的）

第１条　北海道考古学会は北海道およびその周辺地域の考古学の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体の功績を称えるとともに、若手研究者の研究活動を奨励するため「学会賞」を設ける。

（学会賞の種類）

第２条　学会賞は、前条の目的に適合した業績に対して授与することとし、次の２種類とする。

１）北海道考古学会賞

２）北海道考古学会奨励賞

第３条　授賞は毎年原則として各１件とし、該当者の無い場合は授賞を行わない。

（学会賞の選考対象）

第４条　学会賞は、本学会の告知に基づいて自薦・他薦で応募した次の業績を対象とする。

２　北海道考古学会賞は、北海道およびその周辺地域の考古学研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体を対象とする。

３　北海道考古学会奨励賞は、北海道およびその周辺地域の考古学研究において優れた成果をあげ、将来の発展に貢献すると期待される満40歳未満（受賞年の４月１日現在）の会員を対象とする。

４　学会賞が対象とする研究分野は、考古学はもとより考古学に関連する学問分野を含むものとする。

５　北海道考古学会賞が対象とする団体にあっては、本学会員が当該団体に所属していることを要件としない。

（選考方法）

第５条　学会賞は、会長が委嘱する委員で構成する学会賞選考委員会において候補者を選考し、運営委員会の議を経て会長が決定する。

２　会長は、副会長、運営委員２名、一般会員２名に学会賞選考委員会委員を委嘱する。

３　会長は、総会において受賞者名および授賞理由を報告する。

４　受賞者は、原則として受賞後２年以内に本学会の研究大会または月例研究会で講演ないしは研究発表を行うこととする。

（授与）

第６条　学会賞受賞者には、毎年の総会において下記の正賞及び副賞を授与する。

１）北海道考古学会賞　　表彰状

２）北海道考古学会奨励賞　表彰状および研究奨励費

（授賞の取消）

第７条　受賞者が次のいずれかに該当する場合は、運営委員会の議を経たうえで授賞を取り消すものとする。授賞取り消しの通告を受けた受賞者は、表彰状および研究奨励費を返還するものとする。

１）盗作などによって他の研究者の業績を剽窃したことが判明したとき。

２）本学会の名誉を著しく毀損する行為が判明したとき。

附則

この規則は、2014年５月10日より施行する。

2014年度　北海道考古学会研究大会報告

2014年度研究大会は、５月10日(土)北海道大学学術交流会館で開催され、会員63名、一般参加者43名、計106名が参加した。本大会は「盛土遺構を掘る」と題し、縄文時代中期を中心とした最近の盛土遺構調査事例や研究成果の発表をおこなった。福井淳一氏には盛土遺構の調査研究史及び定義と調査方法に関わる問題について発表をお願いした。また、全道各地の特徴を明らかにするため、大泰司統氏、影浦覚氏、工藤研治氏、山谷文人氏、石川朗氏、村本周三にはそれぞれが調査した事例や周辺地域の状況について発表をお願いした。盛土遺構は出土遺物もさることながら、「土」そのものの観察が重要であること

から土壌分析から見た盛土遺構について辻本裕也氏に発表をお願いした。討論の司会は阿部明義氏にお願いした。

福井氏は、盛土遺構が遺物包含層から分離された単独の遺構群として認知され、研究が深化する過程を総括し、「捨て場」、「送り場」、排土処理場、墓、儀礼場などが複合したものとの定義を示した。その上で、(1) 二次堆積土、(2) 焼土・焼骨・炭化物等、(3) 多量の遺物、(4) 祭祀的遺物の包含のうち２つ以上の条件を満たすことが盛土遺構の認定要件となることが示された。本大会で発表して頂いた事例では、すべてを満たしうるのが道南地域の前期～中期前葉、中期末・後期初頭、(3)・(4) の評価が困難なのが道東・道北地域の中期末～後期前葉のものといえる。調査・記録方法では、調査前の現況地形の確認と共に、効果的なトレンチの設定と断面観察が強調された。同様のことは面的な調査を行った他の発表者からも語られていた。

大泰司氏は、道南地域における前期後葉の事例として北斗市館野６遺跡について紹介した。円筒下層b～c式の盛土は斜面へりから斜面下へ廃棄することで形成され、d１式のころに竪穴住居廃絶後のくぼみを埋めるように、d２式頃に同じ場所に土をさらに盛り上げるとの変遷を示した。盛土の形成に伴う地形の変化に着目していることが印象的であった。

影浦氏は、道南地域における前期後葉～中期前葉・後期初頭の事例である福島町館崎遺跡について紹介した。盛土が構築される位置や竪穴住居等との関係、土器の出土状態からその内容が変化する可能性を指摘した。構築中の盛土の層厚を土器の出土状態を手がかりとして推定する手法は、構築時の状況を知る手段に留まらず、盛土遺構と類似する他の遺構での土の状況を知る上でも活用出来るものと考えられる。

工藤氏は、道南地域における後期初頭の事例である北斗市茂別遺跡、道央地域における後期初頭の事例である千歳市美々３遺跡を紹介した。盛土遺構の存在が今日ほど認知される以前の調査であり、遺構として認識するまでの過程が語られた。報告時に「壕」と記載されたように、盛土遺構と凹地の関係は遺構の形成過程や性格を検討する上で今後とも議論になると思われる。

山谷氏は、道北地域の中期の事例である利尻富士町港町１遺跡を紹介すると共に、礼文町上泊３遺跡との比較を行った。２遺跡の「廃棄場跡」には、完形土器が集中して出土、層厚が20cm前後などの共通点が見出され、道南に分布するような環状盛土遺構などのいわゆる大規模なものとは異なり、比較的短期間の廃棄活動に伴う規模ととらえられることが示された。

石川氏は、道東地域における中期末～後期前葉の事例である釧路市大楽毛１遺跡を紹介すると共に、釧路・根室地域の事例（５遺跡39例）と比較し、竪穴住居跡・土坑との位置関係、付属施設の有無から３大別５細分に分類した。環状に遺構群が巡る中央部に盛土遺構が構築されている事例が多いこと、個別の遺構の周辺に構築されているものには周堤などとして理解出来るものがあること、盛土遺構付属施設や出土遺物に際立った特徴が見られないことから器物の廃棄・生産などを越えるものとは考えにくいことが示された。

村本は、道東地域における中期末～後期前葉の事例である斜里町オクシベツ６遺跡、峰浜８線遺跡を紹介した。また、道東地域における中期末～後期前葉の盛土遺構と関連するないしは盛土遺構そのものと認識されている遺構として平地住居跡である「下幌呂型住居跡」の事例を示した。

辻本氏は、土壌微細構造分析を行った青森県三内丸山遺跡西盛土について形成過程や課題を紹介した。また、盛土遺構を検討する上で参考となる人為堆積層の事例が示された。土壌微細構造分析は道内の盛土遺構では導入事例がないが、盛土遺構の調査では土層をより的確に観察し記載すること、研究の進展と共に再度検討することが非常に重要であり、分析方法としてのみならず、一次資料を保管する方法としても今後重要性を増すと思われる。

発表者による討論は阿部明義氏の司会で行われた。盛土遺構の定義と認定については、福井氏の報告が概ね受け入れられていることが確認されると共に、遺構毎の多様性や類似の遺構との関係について議論が必要であるとの意見が出された。本大会で対象とした時期では前期後半～中期前葉の道南地域、中期末～後期前葉の道南と道東・道北地域に存在することが確認され、各地の差異が議論された。調査方法についてはトレンチの有効な活用が強調されると共に、土器については出土位置だけではなく出土状況も検討すること、礫のような利器以外の遺物の出土状況を検討すること、土層を面的に記録することも提案された。また、辻本氏の「まずは現場を見せていただきたい」との発言は、他分野との共同研究が増えている昨今では盛土遺構に限らず重要なことであろう。

遺跡見学会のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度は「恵庭市・千歳市の遺跡発掘調査現場と資料館・展示室を見る」をテーマとして、現在恵庭市・千歳市内で発掘調査中の遺跡見学と恵庭市の郷土資料館、千歳市の埋蔵文

化財センターの見学を行います。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

主　　催　北海道考古学会
期　　日　８月30日(土)　雨天決行
集合場所　札幌駅東通り北口（観光バス乗り場前）　　集合時間９：00
＊バスは北遊観光バスです。
見学コース　JR札幌駅北口（９：00）⇒道央自動車道経由で千歳市へ
⇒午前：北海道埋蔵文化財センターが調査中の遺跡～根志越５遺跡・トプシナイ２遺跡、千歳市埋蔵文化財センター見学
⇒午後：恵庭市郷土資料館、恵庭市教育委員会が調査中の遺跡～島松Bチャシ跡、江別市の北海道埋蔵文化財センターなど
⇒札幌市へ　⇒JR札幌駅（17時30分頃到着予定）
＊なお、天候・道路・現場の状況により行程を多少変更する場合がございます。ご了承下さい。
参加費用　大人4,000円、中学生以下2,000円（バス代、入館料、保険料込み）
＊当日申し受けます。
＊別途、お弁当を注文することができます。飲み物込で1,000円以下の予定です。
申し込み時に「昼食希望」と明記してください。
募集人数　先着順60名（予定）
申込方法　往復葉書かメールで。**電話受付は致しません。申込受付後に受付確認をいたします。確認連絡がない場合はご連絡ください。**
①往復葉書の場合
＜往信部表面＞　〒052-0014　伊達市館山町21-5　伊達市噴火湾文化研究所気付
北海道考古学会事務局
＜往信部裏面＞　郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号、昼食希望の有無を記入。
＜返信部表面＞　返信用の郵便番号・住所・氏名
＜返信部裏面＞　何も記入しないでください。
②メールの場合
hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jpに郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号、昼食希望の有無を記入し、送信してください。
申込期限　８月20日(水)　当日の消印有効。
キャンセル　葉書かメールで。８月25日(月)以降のキャンセルは、下記問い合わせ先にお電話ください。
問い合せ先　**月～木の18：00～20：00のみ。**見学会担当：酒井（090-8373-2799）まで。
服装・お持ちいただく物　昼食（お弁当を注文しない方）・雨具は各自持参してください。また、歩きやすい服装・靴でお越しください。その他、帽子、飲み物、常備薬、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧めいたします。

月例研究会のお知らせ

北海道考古学会では月例研究会を行っています。日時・会場については、学会ホームページ（http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）に最新の情報を掲示いたしますので、事前にご確認ください。発表を希望される会員は学会事務局（hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp）までご連絡下さい。

【報告】
第１回月例研究会
○日　時：６月21日(土) 15：00～
○場　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟（W棟）５階517教室
○発表者：高瀬克範氏（北海道大学）
○テーマ：ロシア平原における中石器の利用法－モスクワ州域出土資料の使用痕分析－

【今後の予定】
第２回月例研究会
○日　時：７月19日(土) 15：00～

○場　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟（W棟）５階517教室
○発表者：高橋美鈴氏（北海道埋蔵文化財センター）
○テーマ：続縄文時代のガラス玉について（仮題）
○発表者：内山幸子氏（東海大学）
○テーマ：北海道における古代以降の儀礼について（仮題）

第３回月例研究会

○日　時：９月20日（土）15：00～
○場　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟（W棟）５階517教室
○発表者：榊田朋広氏（札幌市埋蔵文化財センター）
○テーマ：北海道縄文時代中期後半～後期初頭の土器片加工品をめぐる一考察－札幌市S354遺跡出土資料の観察から－
※事前申し込み・参加費　不要

北海道考古学会21～50年のあゆみ

野村　崇・出村文理・高瀬克範・平川善祥

凡例

(1) 本年表は、『北海道考古学　第20輯』で野村崇、松下亘、出村文理、菊池俊彦、上野秀一が作成した「北海道考古学会20年のあゆみ」（野村他1985）に続くものであり、その体裁はそれになるべく踏襲した。
(2) 本年表は、昭和59（1984）年４月～平成26（2014）年３月の間を、主に『北海道考古学会だより』をもとに作成したものである。正確を期したが、記載漏れ誤記が数多くあると思われることをご承知願いたい。
(3) 年表構成は、会計年度（４月１日から翌年３月31日まで）毎である。
(4) 事務局の所在は、『北海道考古学会だより』の奥付によった。
(5) 記載に年号と西暦の混同があるが『北海考古学会だより』の記載に準じた。
(6) 各年度総会内容については、前年度会務報告および本年度会務計画・予算案を割愛し、前年度決算報告、審議項目のみとした。
(7) 参加人数等不明な部分は△印で記した。
(8)『北海考古学会だより』の事務連絡は、特記事項以外を割愛した。

昭和59年度（1984.4～1985.3）〔事務局：北海道開拓記念館考古研究室〕

6.2･3 第22回総会（旭川パークホテル　出席者45名）
(1) 総会　(a) 昭和58年度会計報告　収入2,529,509円、支出1,739,240円（繰越金790,269円）
(b)「北海道文化財研究所」に関わる道教委に対する要望書
(2) 研究発表　テーマ「道北の考古学」
(a) 研究発表　佐藤和利「紋別地方の最近の発掘調査から」(b) 鈴木邦輝「天塩川流域のチャシについて」 穴沢義功「古代関東地方における製鉄・鍛冶遺構の調査方法について」

8.8･9 遺跡・史跡見学会（静内・浦河・エリモ方面、参加者50名）

10.1 『北海道考古学会だより』第20号
(1) 1984年度第22回総会記事　(2) 1983年度活動報告　(3) 1983年度決算報告　(4) 1984年度予算案　(5) 北海道の埋蔵文化財行政（北海道文化財研究所の設立）に関わる要望書の提出について
(6) 1984年度第27回総会発表要旨

12.15 昭和59年度遺跡調査報告会（札幌市教育文化会館講堂、参加者55名）

2.2 第２回入門講座（講師百々幸雄、札幌市教育文化会館中研修室、参加者40名）

3.31 『北海道考古学』第21輯　［編集委員：林謙作・野村崇・上野秀一・大島直行・松岡達郎・西本豊弘］
B５判　126頁　印刷：北海道図書企画　誌代3,000円送料別

昭和60年度（1985.4～1986.3）〔事務局：北海道開拓記念館考古研究室〕

5.1 『北海道考古学会だより』第21号
(1) 天野哲也「インド部族民による伝統的な製鉄」(2) 埋蔵文化財行政にかかわる北海道教育委員文化化課とのその後の折衝について　(3) 昭和59年度・北海道内の発掘調査一覧

5.25・26　第23回総会（野幌公民館　出席者28名）
（1）総会　（a）昭和59年度決算報告　収入1,838,939円、支出1,454,935円（繰越金384,004円）
（b）役員改選　（留任）野村崇、天野哲也、田村俊之、工藤研治、長沼孝、佐藤隆広、松田猛、村田俊之　（新任）松下亘、菊池俊彦、百々幸雄、羽賀憲二、園部真幸、出利葉浩司、右代啓視、渡辺俊一、斉藤傑、久保泰、佐藤訓敏　（c）昭和60年度以降の会費値上げ案の提出　（d）新委員長　野村崇
（2）研究発表　テーマ「擦文期の鉄をめぐって」
（a）事例報告（発表者：田村俊之、瀬川拓郎）（b）研究発表　石附喜三男「北海道の鉄生産の諸問題」　佐々木稔「金属学の立場からみた北海道の鍛冶資料の解釈」
（3）遺跡見学会（江別市内の遺跡・施設、参加者△名）
7.31　『北海道考古学会だより』第22号
（1）昭和60年度第23回総会記事　（2）昭和59年度活動報告　（3）佐々木稔「鉄器・鉄滓の組成と鋼の精錬法」（4）会員名簿・北海道考古学会会則
10.27　遺跡見学会（小樽、余市方面、参加者55名）
12.1　『北海道考古学会だより』第23号
（1）出利葉浩司「サハリン紀行」（2）広瀬隆人「雄武高校の埋蔵文化財保護活動」（3）昭和60年度北海道発掘調査一覧　（4）支部活動“遺跡・史跡見学会”
12.14　昭和60年度遺跡調査報告会（札幌市教育文化会館講堂、参加者80名）
3.27　初代委員長　石附喜三男氏逝去
3.31　『北海道考古学』第22輯（関連科学特集）
B５判　176頁　印刷：北海道図書企画　誌代3,800円送料別

昭和61年度（1986.4～1987.3）〔事務局：北海道開拓記念館考古研究室〕
4.1　『北海道考古学会だより』第24号
（1）天野哲也「続縄文期末および擦文期の若干の資料」（2）羽賀憲二「札幌市埋蔵文化財展示室」
（3）昭和59年度北海道遺跡発掘調査報告書一覧
5.17・18　第24回総会（帯広百年記念館　出席者32名）
（1）総会　（a）昭和60年度決算報告　収入1,628,336円、支出1,775,910円（赤字147,574円）（b）会費2500円→3500円値上げの説明
（2）研究発表　テーマ「十勝の考古学」
（a）北沢実「十勝地域の先土器時代研究の現状　（b）佐藤孝則「溝状ピットは落し穴として機能するか？」（c）辻秀子「十勝アイヌ熊送り儀礼－オプニレー」（d）近藤錬三「プラントオパール、その考古学への応用」
（3）遺跡見学会（八千代遺跡発掘現場他）
8.1　『北海道考古学会だより』第25号
（1）1986年第24回総会（記事）（2）1986年第24回総会研究発表要旨　（3）図書のご案内
10.19　遺跡見学会（恵庭・千歳・苫小牧方面　参加者34名）
11.20　『北海道考古学会だより』第26号
（1）資料紹介　松下亘「北海道余市町沢町出土の柱状石斧」（2）支部活動「遺跡・史跡見学会」
（3）委員会記録　（4）昭和61年度発掘調査報告会のご案内
12.13　昭和61年度遺跡調査報告会（札幌市教育文化会館講堂　参加者70名）
3.1　『北海道考古学会だより』第27号
（1）羽賀憲二「昭和61年度K483遺跡の調査」（2）昭和61年度北海道遺跡発掘調査報告書一覧
3.26　『北海道考古学』第23輯（石附喜三男教授追悼特集）［編集：松下亘］
B５判　116頁　印刷：北海道図書企画　誌代3,500円送料別

昭和62年度（1987.4～1988.3）〔事務局：苫小牧市埋蔵文化財調査センター〕
4.5　第21回総会（千歳市民文化センター、出席者△名）
（1）総会　（a）昭和61年度決算報告　収入1,709,132円、支出1,278,526円（繰越金430,606円）
（b）役員改選　（留任）松下亘・菊池俊彦・百々幸雄・羽賀憲二・園部真幸・出利葉浩司・右代啓視・渡辺俊一・斉藤傑・久保泰・佐藤訓敏（新任）佐藤一夫、鶴丸俊明、福士廣志、越田賢一郎、古原敏弘、鈴木邦輝、椙田光明、西田茂、工藤肇　（c）新委員長：佐藤一夫

(2) 研究発表　テーマ「千歳周辺における考古学の諸問題」
(a) 田村俊之「千歳周辺における考古学の諸問題」 (b) 長沼孝・森岡健治「縄文終末期の土壙について」 (c) 松下亘「擦文式土器の刻印について」
(3) 千歳市民会館郷土資料室見学

8.1　『北海道考古学会だより』第28号
(1) 野村崇「委員長退任のご挨拶」 (2) 佐藤一夫「新委員長のご挨拶」 (3) 1987年度第25回総会記事　(4) 1987年度第25回総会研究会発表要旨　(5) 1986年度北海道発掘調査一覧

8.17　遺跡見学会（恵庭・江別方面、参加者41名）

10.3　顧問　名取武光氏逝去

12.12　昭和62年度遺跡調査報告会（札幌市教育文化会館大会議室、参加者46名）

3.31　『北海道考古学会だより』第29号
(1) 訃報（名取武光氏） (2) 佐藤一夫「函館市陣川遺跡問題の経緯について」 (3) 福田友之「津軽海峡と黒曜石」

3.26　『北海道考古学』第24輯（名取武光先生追悼記念号）［編集：松下亘］
B５判　152頁　印刷：北海道図書企画　誌代3,800円送料別

昭和63年度（1988.4～1989.3）〔事務局：苫小牧市埋蔵文化財調査センター〕

5.14･15　第26回総会（松前町町民総合センター　出席者30名）
(1) 総会　(a) 昭和62年度決算報告　収入1,689,766円、支出1,372,488円（繰越金317,278円）
(b) 故名取武光氏ご子息史朗氏より寄付金
(2) 研究発表　テーマ「北海道における中・近世の諸問題」
(a) 久保泰「道南における最近の調査動向」 (b) 松崎水穂「北海道の中・近世陶磁器について」
(c) 三浦正人・田中哲郎「平取町二風谷遺跡について」 (d) 越田賢一郎「遺物・遺構からみた中・近世の北海道」

8.8　遺跡見学会（深川・滝川方面、参加者50名）

10.1　『北海道考古学会だより』第30号
(1) 1988年度第26回総会記事　(2) 1988年度第26回総会研究発表要旨

12.7　昭和63年度遺跡調査報告会（札幌市教育文化会館　参加者59名）

3.25　『北海道考古学』第25輯（特集：埋蔵文化財－特に保存と活用の現況－）［編集：松下亘］
B５判　120頁　印刷：北海道図書企画　誌代3,500円送料別

3.31　『北海道考古学会だより』第31号
(1) 札幌支部遺跡見学会の報告　(2) 1988年度遺跡報告会発表要旨　(a) 大島直行「伊達市有珠10遺跡第４次調査」 (b) 小樽市忍路土場遺跡　(c) 豊原熙司・鶴丸俊明「平取町イルエカシ遺跡」

平成元年度（1989.4～1990.3）〔事務局：苫小牧市埋蔵文化財調査センター〕

4.23　第27回総会（札幌学院大学、出席者57名）
(1) 総会　(a) 昭和63年度決算報告　収入1,172,890円、支出1,062,688円（繰越金110,202円）
(b) 役員改選　（留任）鶴丸俊明、福士廣志、越田賢一郎、古原敏弘、鈴木邦輝、椙田光明、西田茂、工藤肇（新任）山田悟郎、稲垣和幸、上屋眞一、瀬川拓郎、田中哲郎、寺崎康史、北沢実、和田英明、豊原熙司、矢吹俊男　(c) 新委員長：鶴丸俊明
(2) シンポジウム　テーマ「北海道先土器時代研究における分析方法と編年」
(a) 横山英介「近年の調査・研究からみた北海道の旧石器（無土器）」 (b) 長沼孝「美利河１・石川１遺跡の分析」 (c) 千葉英一「新道１遺跡の分析」

8.1　『北海道考古学会だより』第32号
(1) 平成元年度第27回総会記事　(2) 野村崇「サハリン発掘紀行(1)」 (3) 昭和63年度発掘調査一覧」 (4) 遺跡見学会のご案内

8.7　平成元年度遺跡見学会（千歳・恵庭方面　参加者40名）

11.20　『北海道考古学会だより』第33号
(1) 札幌支部　遺跡見学会の報告　(2) 北沢実「佐藤訓敏氏を悼む」 (3) 野村崇「サハリン発掘紀行(2)」 (4) 大井晴男「補説、埋蔵文化財問題と研究者の態度」 (5) 昭和63年度発掘調査一覧

12.9　平成元年度遺跡発掘調査報告会・北構保男先生博士号取得記念講演会（札幌市教育文化会館　参加者40名）

記念講演　北構保男「蝦夷（エミシ）についての若干の考察」
3.26 『北海道考古学』第26輯（平成元年度（旧石器）特集）［編集：鶴丸俊明］
B５判　112頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,000円送料別
3.30 『北海道考古学会だより』第34号
（1）第28回総会ならびに研究大会開催要項　（2）平成元年度遺跡調査報告会発表要旨
3.31 『平成元年度　北海道考古学会会員名簿」発行

平成２年度（1990.4〜1991.3）〔事務局：苫小牧市埋蔵文化財調査センター〕
5.19・20　第28回総会（名寄市グランドホテルメープル、出席者48名）
（1）総会　（a）平成元年度決算報告　収入1,394,522円、支出1,287,107円（繰越金107,415円）
（b）平成２年度事業計画・予算案
（2）研究大会　テーマ「サハリンと北海道の考古学の諸問題」
（a）特別講演　V.O.シュービン「太古のサハリン」（b）研究発表　野村崇・杉浦重信「サハリンの遺跡－プロムィスロヴォエⅡ遺跡の調査－」（c）杉浦重信「北海道の石刃鏃文化の性格について」（d）輿水達司「理化学的手法による黒曜石の原産地分析」（e）金盛典夫・北沢実「サハリン州郷土博物館について」
（3）見学会　名寄市郷土資料館、名寄市・下川町の遺跡
6.7　顧問　高倉新一郎氏逝去
7.4　顧問　新岡武彦氏逝去
7.25 『北海道考古学会だより』第35号　［編集：鶴丸俊明］
（1）第28回総会及び研究大会　（2）野村崇・杉浦重信「サハリンの遺跡－プロムィスロヴォエⅡ遺跡発掘－」（3）遺跡見学会のご案内
8.3　遺跡見学会（余市・小樽方面　参加者46名）
11.20 『北海道考古学会だより』第36号
（1）訃報（高倉新一郎・新岡武彦氏）（2）旧石器を語る会のお知らせ　（3）松下亘「新岡先生さようなら」（4）中村斎「師表たる人－高倉先生に捧ぐ－」
12.15 平成２年度遺跡発掘調査報告会（札幌市教育文化会館、参加者75名）
3.26 『北海道考古学』第27輯
B５判　13頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,000円送料別
3.30 『北海道考古学会だより』第37号
（1）第29回総会及び研究大会開催要項　（2）佐藤隆広「目梨泊遺跡」（3）田村俊之「千歳市丸子山遺跡」（4）武田修「北海道常呂町常呂川河口遺跡15号竪穴出土遺物」

平成３年度（1991.4〜1992.3）〔事務局：札幌大学埋蔵文化財展示室〕
6.2　第29回総会（札幌大学　出席者33名）
（1）総会　（a）平成２年度決算報告　収入1,229,488円、支出1,272,748円（赤字43,260円）（b）役員改選　（留任）山田悟郎、上屋眞一、稲垣和幸、瀬川拓郎、田中哲郎、寺崎康史、北沢実、和田英明、豊原熙司、矢吹俊男（新任）木村英明、高橋和樹、三浦正人、氏江敏文、佐藤隆広、宮宏明、石川朗、二階堂啓　（c）新委員長：木村英明
（2）研究大会　テーマ「考古学への周辺科学の応用」
（a）花岡正光「遺跡と火山灰編年学」（b）小林幸雄「北海道先史時代における漆工技術〜とくに忍路土場遺跡出土の漆櫛を中心に〜」（c）三野紀雄「先史時代における樹木の利用分析」
7.20 『北海道考古学会だより』第38号
（1）佐藤一夫「委員長退任のごあいさつ」（2）木村英明「新委員長のごあいさつ」（3）1990年度総会記事　（4）遺跡見学会のご案内
8.5　遺跡見学会（恵庭・千歳方面　参加者41名）
11.25 『北海道考古学会だより』第39号
（1）木村英明「白滝村服部台遺跡採集の細石刃核」（2）（経過報告）「湯川貝塚の緊急発掘調査問題」とその後の取り組みについて　（3）1991年度遺跡発掘調査報告会のご案内
12.14 1991年度遺跡発掘調査報告会（かでる２・７　参加者70名）
3.26 『北海道考古学』第28輯（特集：北海道の鉄器）［編集：田中哲朗］
B５判　147頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,000円送料別

3.31 『北海道考古学会だより』第40号
(1) 北海道考古学会第30回総会及び研究大会開催要項 (2) 花岡正光「遺跡と火山灰編年学 (3) 小林幸雄「北海道先史時代における漆工技術」(4) 三野紀雄「先史時代における樹木の利用分析」

平成4年度(1992.4〜1993.3)〔事務局:札幌大学埋蔵文化財展示室〕
6.6 第30回総会(倶知安町公民館、出席者35名)
(1) 総会 (a) 平成3年度決算報告 収入2,071,275円、支出1,539,146円(繰越金532,129円)
(b) 平成4年度事業計画・予算案
(2) 研究大会 テーマ「縄文後期の土器と文化」
(a) 成田滋彦「東北北半部の縄文後期」(b) 大沼忠春「いわゆるニセコ式土器について」(c) 矢吹俊男「後志管内の縄文後期」
(3) 遺跡及び展示・収蔵施設見学会 峠下遺跡・茶津貝塚・とまりん館等
7.10 『北海道考古学会だより』第41号
(1) 埋蔵文化財展示施設及び史跡見学会のご案内 (2) 1992年度第30回総会記事 (3) 1991年度会務報告・1992年度会務協議 (4) 中田裕香 論集の紹介「十勝考古学とともに−少壮の考古学研究者佐藤訓敏君を悼む−」
9.5 顧問 峯山巌氏逝去
8.3 遺跡見学会(札幌市内 参加者47名)
10.31 『北海道考古学会だより』第42号
(1) 1992年度遺跡調査報告会のご案内 (2) 北海道考古学30年記念論集・『北海道考古学』第29号に関するお知らせ (3) 訃報 竹田輝雄「峯山先生を憶う」 藤本英夫「わが青春に悔いあり」 峯山富美「夫を送って」(4) 遺跡紹介 氏江敏文「サロベツの遺跡」
12.5 遺跡発掘報告会(かでる2・7、参加者111名)
3.26 『北海道考古学』第29輯(特集:「中・近世」社会の動きと文物)
B5判 130頁 印刷:北海道図書企画 誌代4,000円送料別

平成5年度(1993.4〜1994.3)〔事務局:札幌大学埋蔵文化財展示室〕
4.24 第31回総会(札幌大学 出席者33名)
(1) 総会 (a) 平成4年度決算報告 収入2,188,244円、支出1,714,715円(繰越金473,529円)
(b) 平成5年度事業計画・予算案 (c) 役員改選 (留任)木村英明、高橋和樹、三浦正人、氏江敏文、佐藤隆広、宮宏明、石川朗、二階堂啓(新任)阿部千春、荒生健司、工藤義衛、仙庭伸久、出利葉浩司、友田哲宏、中田裕香、野中一宏、福田友之、三浦孝一 (d) 委員長:木村英明
(2) 特別講演 (a) 大塚和義「アイヌ考古学と民族誌の接点」(b) スチュアート・ヘンリ「国際先住民年と考古学」
7.10 『北海道考古学会だより』第43号
(1) 遺跡・博物館等見学会のご案内 (2) 1993年度総会記事 (3) 資料紹介 氏江敏文「大雪山系の石刃鏃」
8.5 遺跡見学会(旭川・深川・滝川・岩見沢 参加者47名)
11.10 『1993年度 北海道考古学会会員名簿』発行
11.10 『北海道考古学会だより』第44号
(1) 1993年度北海道考古学会遺跡調査報告会のご案内 (2)『北海道考古学会』30輯に関するお知らせ (3) 中村五郎「道南と東北南部会津若松市屋敷遺跡の土器」(4) 1993年度北海道考古学遺跡見学会報告
12.11 1993年度遺跡調査報告会(かでる2・7 参加者133名)
3.20 『北海道考古学会だより』第45号
(1) 1994年度北海道考古学会総会・大会のご案内 (2) 阿部千春「下海岸を中心とした埋蔵文化財保護の実状」(3) 木村英明「横山英介他による『批判論文』の取り扱い(経緯)とお詫び」
3.31 『北海道考古学』第30輯(『北海道考古学』第30輯記念特集号 特集:北海道考古学・現状と課題)
B5判 144頁 印刷:北海道図書企画 誌代4,000円送料別

平成6年度(1994.4〜1995.3)〔事務局:札幌大学埋蔵文化財展示室〕
4.24 第32回総会(札幌大学 出席者33名)

(1) 総会　(a) 平成５年度決算報告　収入2,357,268円、支出2,092,798円（繰越金264,470円）
(b) 定期的な研究会活動の提案
(2) 研究大会　テーマ「古代・中世における日本海・余市大川遺跡をめぐる諸問題」
(a) 宮宏明「古代・中世における大川遺跡５か年に及ぶ調査成果」 (b) 大島秀俊「小樽市蘭島遺跡群における擦文時代の様相について」 (c) 越田雅司「美々８遺跡出土の墨書土器と刻文土器」 (d) 中村和之「古代・中世における樺太と北海道」 (e) 菊池俊彦「大陸の古代・中世と大川遺跡」

7.8　「キウス遺跡群保存問題対策特別委員会」第１回会合

7.15　『北海道考古学会だより』第46号
(1) 1994年度北海道考古学会遺跡及び博物館見学会のご案内　(2) 北海道考古学会第１回研究会のお知らせ　(3) 1994年度北海道考古学会第32回総会・大会関係記事　(4) キウス遺跡群・白滝遺跡群保存に関する要望と回答他

8.7　遺跡見学会（苫小牧・千歳・恵庭方面　参加者34名）

8.7　第１回定例研究会　(1) 西脇対名夫「山内清男の模様帯系統論をめぐって」 (2) 高橋理「千歳市丸子山遺跡をめぐる様相」

11.2　顧問北構保男氏北海道文化賞受賞（なお、1969.11.3に顧問名取武光氏、1971.11.3に元会長大場利夫氏、1975.11.1に顧問峯山巌氏が同賞を受賞している）

11.20　『北海道考古学会だより』第47号
(1) 1994年度北海道考古学会遺跡報告会のご案内　(2)「埋文写真の基礎知識」講演のご案内　(3) シンポジウム「北海道における縄紋時代のはじまりに関する土器の諸問題」のご案内　(4) 1994年度北海道考古学会遺跡見学会実施報告　(5) 北海道考古学会第１回研究会の報告　(6)「北海道考古学会キウス遺跡群保存問題対策特別委員会」の活動経過報告　(7)『北海道考古学の諸問題』の刊行に関するお詫び

12.11　1994年度遺跡調査報告会（かでる２・７　参加者174名）

3.25　第２回研究会（於：函館）

3.27　『北海道考古学』第31輯（北海道考古学の諸問題）
A４判　305頁　印刷：北海道図書企画　誌代5,500円送料別

平成７年度（1995.4～1996.3）〔事務局：江別市大麻公民館〕

4.24　『北海道考古学会だより』第48号
(1) 1995年度北海道考古学会総会のご案内　(2) 1995年度北海道考古学会大会のご案内　(3) 斉藤傑「小さいものと大きいもの－フォーラム・アイヌ文化を考えるに参加して－」 (4) 出穂雅実・斉藤大朋・安西雅希「野幌森林公園、瑞穂池北岸遺跡表採の資料について」

5.13　第33回総会（札幌市立中央図書館講堂、出席者47名）
(1) 総会　(a) 平成６年度決算報告　収入2,762,213円、支出2,387,731円（繰越金374,482円）
(b) 役員改選　（留任）阿部千春、荒生健志、工藤義衛、仙庭伸久、出利葉浩司、友田哲宏、豊田宏良、中田裕香、野中一宏、福田友之、三浦孝一　（新任）赤石慎三、内山真澄、熊谷仁志、鈴木信、高橋正勝、西脇対名夫、古屋敷則雄、三浦佳代、山原敏朗、薮中剛司　(c) 委員長：高橋正勝
(2) 研究大会　テーマ「縄文土器型式と道内編年の問題について」

8.7　遺跡見学会（泊・余市・小樽方面　参加者131名）

8.18　『北海道考古学会だより』第49号
(1) 木村英明「委員長退任のご挨拶」 (2) 高橋正勝「委員長就任のご挨拶」 (3) 1995年度北海道考古学会総会・研究大会記事　(4) 1994年度会務報告など　(5)「キウス遺跡群保存問題」について

9.23　定例研究会　(a) 出穂雅実「北見市中本遺跡の再検討」 (b) 鈴木信「北海道における中世考古学的要素の摘出Ⅰ・Ⅱ」

10.28　定例研究会　(a) 大西秀之「続縄文文化のサハリンへの波及」 (b) 中田裕香「擦文文化期の北海道」

11.25　定例研究会　(a) 工藤義衛「道央以北の円筒下層式」 (b) 西脇対名夫「植苗式土器の内面にはなぜ縄紋がつくのか」

11.27　『北海道考古学会だより』第50号
(1) 1995年度北海道考古学遺跡調査報告会のご案内　(2) 1995年度遺跡見学会実施報告　(3) キウス遺跡群保存問題経過報告　(4) 定期研究会実施報告

12.　北海道考古学会についてのアンケート実施（回答73名）

12.23　定例研究会　(a) 藤井誠二「日本列島における前期・中期旧石器研究」 (b) 秋山洋司「狩猟採集

が続いたのは－続縄文文化について考える」
1.27 定例研究会 (a) 高瀬克範「恵山文化の魚形石器について」(b) 山原敏朗「旧石器時代終末期に関する北海道的諸問題と本州との関連」
2.24 定例研究会 (a) 早田勉「編年研究における自然科学的基礎－特に火山灰編年学とC14年代測定を中心として」
3.23 定例研究会 (a) 澤田健「擦切技法による石斧製作について」(b) 長崎潤一「旭川市射的山遺跡について」
3.28 『北海道考古学会だより』第51号
(1) 1996年度北海道考古学会総会のご案内 (2) 1996年度北海道考古学会研究大会のご案内 (3) 会務アンケート回答集約について (4) 新会員の紹介 (5) 月例研究会活動報告
3.31 『北海道考古学』第32輯
B５判 128頁 印刷：北海道図書企画 誌代4,000円送料別

平成８年度（1996.4～1997.3）〔事務局：江別市大麻公民館〕
4.27・28 第34回総会（千歳市民文化センター中ホール、出席者40名）
(1) 総会 (a) 平成７年度決算報告 収入3,062,127円、支出2,899,929円（繰越金162,198円）
(2) 研究大会
１）一般研究発表 (a) 山原敏朗「旧石器時代終末期に関する北海道的諸問題」(b) 高瀬克範「恵山文化の魚形石器について」
２）シンポジウム「縄文の風景をさぐる－キウスの可能性、キウス周堤墓群の再検討」(a) 基調講演 小林達雄「“キウス”の可能性」(b) 研究報告 田村俊之「キウス周堤墓群の研究史」 藤原秀樹「キウス４遺跡の調査について」 矢吹俊男「美沢川流域の環状土籬－美々４遺跡の調査から－」 木村英明「北海道恵庭市柏木川B遺跡にみられる〈環状土籬の構造〉」 小杉康「縄文時代後半における東日本の大規模土木記念物について」 林謙作「環状周堤墓に伴う土坑墓」
(3) 遺跡巡検 ウサクマイC遺跡・市立図書館展示室・キウス周堤墓群・サケのふるさと館
6.29 定例研究会 佐藤剛司「弥生時代終末期～古墳時代前期にかけての土器の変遷・編年観について」
7.27 定例研究会 高倉純「北海道の石刃鏃石器群について」
8.20 『北海道考古学会だより』第52号
(1) 訃報 西幸隆「澤先生との出会いと別れ」(2) 1996年度北海道考古学会第34回総会記事 (3) 平成８年度発掘調査予定一覧 (4) 新会員の紹介 (5)『北海道考古学』第32輯正誤表 (6) 遺跡見学会のご案内
8.24 定例研究会 西田茂・大泰司統「縄文時代の石器形態の変遷について」
9.7 遺跡見学会（伊達・虻田方面 参加者153名）
9.28 定例研究会 西脇対名夫「周堤墓から出土する『石棒』の起源について」
10.25『北海道考古学会だより』第53号
北海道考古学会会員アンケート結果 (1) 総括 (2) 各論
10.26 定例研究会 鈴木信「擦文文化期の生業はどう考えたらよくわかるのだろう」
11.23 定例研究会 田中哲郎「縄文早期の竪穴について」
12.2 『北海道考古学会だより』第54号
(1) 1996年度北海道考古学会遺跡調査報告会のご案内 (2) 1996年度北海道考古学会遺跡見学会実施報告 (3) キウス４遺跡見学報告 (4) 国指定史跡「フゴッペ洞窟」保存要望について (5) 会誌改善委員会の設置について (6)「北海道考古学」第33輯の原稿募集について (7) 1997年度北海道考古学会総会・研究大会の予定について
12.21 遺跡調査報告会 （かでる２・７ 参加者142名）
2.22 定例研究会 高瀬克範「恵山式土器群の成立・拡散の背景」
2.26 『北海道考古学会だより』第55号
(1) 会誌改善小委員会検討結果報告 (2) 北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱 (3) 北海道考古学会会誌編集委員会名簿 (4) 委員および委員会規則 (5) 北海道考古学会委員公募細則 (6) 総会規則 (7) 新会員取扱規則 (8) 印刷物等販売規則 (9) 委員の公募について (10) 編集委員の推薦について
3.29 定例研究会 手塚薫「極東地域の小型獣狩猟活動」
3.31 『北海道考古学』第33輯

［編集委員：大谷敏三・加藤邦雄・工藤肇・越田賢一郎・斉藤傑・豊田宏良・西脇対名夫］
B５判　78頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,000円送料別

平成９年度（1997.4～1998.3）〔事務局：江別市セラミックアートセンター〕

4.26・27　第35回総会（伊達歴史の杜カルチャーセンター　出席者30名）
（1）総会　（a）平成８年度決算報告　収入3,344,770円、支出3,130,947円（繰越金213,823円）
（b）会則の改正　（c）役員改選　（留任）赤石慎三、内山真澄、熊谷仁志、鈴木信、高橋正勝、西脇対名夫、古屋敷則雄、山原敏朗、薮中剛司　（新任）石橋孝雄、佐藤智雄、熊木俊朗、西本豊弘、石川直章、林謙作、藤井浩、秋山洋司、田口尚、手塚薫、吉田玄一、松谷純一、高橋理　（e）委員長：高橋正勝　副委員長：石橋孝雄
（2）研究大会　テーマ「噴火湾の縄文人は何を食べてきたか－貝塚研究の現在－」
１）基調講演　岡村道雄　２）事例報告　鵜沢和弘・高橋理・高宮広士・三浦孝一

4.26　会費3,500円から4,500円に値上げ

5.23　定例研究会　林謙作「美々４遺跡の再検討」

6.23　定例研究会　中沢祐一「被熱黒曜石生成の実験－黒曜石の白色部形成について－」

6.27　『北海道考古学会だより』第56号
（1）1997年度総会及び研究大会略報　（2）1996年度会務・決算報告、1997年度予算（案）　（3）北海道考古学会会則の改正・会費値上げのお断り　（4）1997年度北海道考古学会会誌編集委員会員名簿　（5）1997年度北海道考古学会委員体制　（6）新入会員の紹介　（7）北海道考古学会月例研究会のご案内と実施報告

7.31　『北海道考古学会だより』第57号
（1）キウス遺跡の保存問題について　（2）埋蔵文化財発掘調査促進方策研究協議会（道教委所管）の設置について　（3）平成９年度北海道内発掘調査一覧　（4）第１回北海道考古学会会誌編集委員会協議報告　（5）北海道考古学会会員名簿の作成にあたって　（6）平成９年度北海道考古学会主催遺跡見学会のご案内　（7）第３回北海道考古学会月例研究会のご案内

8.30　遺跡見学会（千歳・恵庭方面　参加者66名）

9.27　定例研究会　福田正宏「亀ヶ岡式土器における入組文のゆくえ」

11.15　『北海道考古学会だより』第58号
（1）訃報　右代啓視「石川達也氏を哀悼する」（2）1997年度遺跡報告会のご案内　（3）1997年度北海道考古学会主催遺跡見学会報告　（4）秋山洋司・西脇対名夫「千歳市美々貝塚北遺跡について　（5）書評　岡田淳子「大谷地貝塚と五十嵐鐵－余市式土器をめぐって－」

11.29　定例研究会　花岡正光「北海道におけるテフロクロノロジー（火山編年学）－遺跡とテフラ－」

12.13　遺跡調査報告会（かでる２・７　参加者200名）

3.31　『北海道考古学』第34輯
［編集委員：林謙作・上野秀一・大島直行・長沼孝・右代啓視・豊田宏良・西脇対名夫］
B５判　130頁、印刷：北海道図書企画、誌代4,500円送料別

平成10年度（1998.4～1999.3）〔事務局：江別市民会館〕

4.10　『北海道考古学会だより』第59号
（1）1998年度北海道考古学会総会・大会のご案内　（2）情報紹介　美利河１遺跡、砂原町二ツ山遺跡　（3）保護問題懇話会の実施状況

4.28　第36回総会（江別市民文化ホール、出席者37名）
（1）総会　（a）平成９年度決算報告　収入2,496,981円、支出2,317,391円（繰越金179,590円）
（b）平成10年度事業計画・予算案
（2）公開シンポジウム　テーマ「『北海道式古墳の系譜－擦文文化の墓制をめぐって－」
基調講演　八木光則、事例報告　田才雅彦・鈴木信・上屋眞一・野中一宏
（3）巡検（開拓記念館・江別市セラミックセンター・江別古墳群・江別市郷土資料館）

7.10　『北海道考古学会だより』第60号
（1）1998年度総会および研究大会略報　（2）1997年度会務・決算報告、1998年度予算（案）　（3）情報紹介　（4）事務連絡　（5）『北海道考古学』第34輯の正誤について　（6）北海道考古学会月例研究会発表者募集の案内　（7）北海道考古学主催遺跡見学会のお知らせ　（8）沙流川歴史館開館記念シンポジウムの案内　（9）『縄文の道フォーラム』（案）のお知らせ

9.5　遺跡見学会（富良野・芦別方面　参加者87名）
11.24『北海道考古学会だより』第61号
（1）1998年北海道考古学会遺跡報告会の案内　（2）緊急報告　鈴木信・西脇対名夫・秋山洋司「千歳市キウス４遺跡の発掘調査について」（3）98年度遺跡見学会実施報告　（4）98年度北海道内遺跡調査一覧　（7）深澤百合子「北海道考古学会21世紀への構想」
12.19 遺跡調査報告会（かでる２・７　参加者△名）
2.20　定期研究会　北大高等教育開発研究部「金属製考古資料の科学的調査に関する研究会」
3.15『北海道考古学会だより』第62号
（1）1999年度北海道考古学会定期総会のご案内　（2）1999年度北海道考古学会研究大会のご案内　（3）日本考古学協会1999年度釧路大会について　（4）緊急報告千歳市キウス４遺跡の発掘調査について　（5）月例報告会実施報告と発表者募集の案内
3.31『北海道考古学』第35輯
［編集委員：林謙作・上野秀一・大島直行・長沼孝・右代啓視・豊田宏良・西脇対名夫］
Ｂ５判　103頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,500円送料別

平成11年度（1999.4～2000.3）〔事務局：札幌学院大学〕
4.24　第37回総会（江別市民文化センター　出席者43名）
（1）総会　（a）平成10年度決算報告　収入3,612,872円、支出2,750,411円（繰越金862,461円）（b）平成11年度事業計画・予算案　（c）役員改選　（留任）石橋孝雄、佐藤智雄、熊木俊朗、西本豊弘、石川直章、林謙作、藤井浩、秋山洋司、田口尚、手塚薫、吉田玄一、松谷純一、高橋理（新任）鶴丸俊明、青野友哉、氏江敏文、松田猛、福田友之、畑宏明、小杉康、深澤百合子、長崎潤一　（d）委員長：鶴丸俊明　副委員長：石橋孝雄　（e）会誌編集委員：林謙作、上野秀一、右代啓視、大島直行、小杉康、長沼孝、西脇対名夫
（2）研究大会　テーマ「北海道の遺跡を科学する」
１）基調講演　林謙作「考古学と関連科学」
２）研究発表　（a）山田悟郎「クリとドングリ」（b）小林幸雄「漆膜を読む」（c）小笠原正明「アスファルトの産地推定」（d）村上隆「『見えないもの』を見るために－不可視情報可視化の試み－」
7.15『北海道考古学会だより』第63号
（1）1999年北海道考古学会総会および研究大会略報　（2）1998年度北海道考古学会会務・決算報告、1999年度予算（案）（3）情報紹介　乾哲也・乾希「礼文町船泊遺跡出土の機能・用途不明石器（仮称「短冊形石器」）の紹介　（4）1997・98年度キウス４遺跡の保護について
8.28　遺跡見学会（赤井川・余市・小樽方面　参加者86名）
9.11　定例研究会　福岡イト子「考古学とアイヌ地名」
10.9～12　日本考古学協会釧路大会への協力
11.6　定例研究会　工藤雅樹「北日本の考古学－古代の蝦夷とアイヌ－」
11.15『北海道考古学会だより』第64号
（1）1999年北海道考古学会遺跡報告会の案内　（2）1999年度遺跡見学会実施報告　（3）『北海道考古学』第36輯の原稿募集について　（4）北海道考古学会定例研究会の実施報告と次回開催発表者募集の案内　（5）北海道立埋蔵文化財センター開館のお知らせ
2.5　定例研究会　藤井浩・山中文雄・阿部明義「キウス４遺跡」
12.18 遺跡調査報告会（かでる２・７　参加者△名）
3.31『北海道考古学会だより』第65号
（1）訃報　鶴丸俊明「故佐藤隆広君のこと」（2）2000年度北海道考古学会定期総会のご案内　（3）2000年度北海道考古学会研究大会のご案内　（4）葛西智義「矢不来２遺跡の涌元式について」（5）1999年度遺跡報告会実施報告　（6）月例研究会の実施報告と開催の案内　（7）平成11年度遺跡発掘成果展のご案内
3.31『北海道考古学』第36輯（小特集：北海道における農耕問題）
［編集委員：林謙作・上野秀一・右代啓視・大島直行・小杉康・長沼孝・西脇対名夫］
Ｂ５判　143頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,500円送料別

平成12年度（2000.4～2001.3）〔事務局：札幌学院大学〕

5.13・14　第38回総会（札幌学院大学　出席者27名）
（1）総会　(a) 平成11年度決算報告　収入3,914,473円、支出3,791,513円（繰越金122,960円）
(b) 会則一部改正（監査委員の規定を追加、監査委員：高橋正勝、阿部明義）
（2）研究大会　テーマ「北海道旧石器考古学の諸問題」
１）基調講演　梶原洋「北東アジアにおける土器出現の諸問題」
２）事例報告　(a) 鈴木宏行「白滝村白滝遺跡群」(b) 福井淳一「千歳市柏台１遺跡」(c) 大島秀俊「長万部町オバルベツ２遺跡」
（3）巡検　北海道立埋蔵文化財センター
6.3　定例研究会　西脇対名夫「マレクとアイヌ社会」
7.28　『北海道考古学会だより』第66号
（1）2000年度総会および研究大会略報　（2）1999年度会務・決算報告、2000年度予算（案）（3）北海道考古学会会則の改正および監査委員の紹介　（4）書籍紹介　高橋理「佐藤広史氏追悼論文集」
（5）加藤邦雄「北海道考古学会1979年網走大会の頃
8.26　遺跡見学会（恵庭・千歳・鵡川・平取方面　参加者75名）
10.14　定例研究会　高倉純「剥離方法の同定研究－フラクチャーウイングを用いた研究の枠組み」　出穂雅実「北海道上川郡下川町ルベの沢における採取資料」
10.23　『北海道考古学会だより』第67号
（1）2000年度北海道考古学会遺跡報告会の案内　（2）2000年度遺跡見学会実施報告　（3）『北海道考古学』第37輯の特集テーマおよび原稿募集について　（4）事務連絡
11.4　定例研究会　マリー・ルイーズ・イニザン「押圧細石刃剥離；技術と方法その考案と伝搬」
12.16　遺跡調査報告会　（北海道大学学術交流会館　参加者△名）
1.20　定例研究会　小野昭「旧石器時代の打製骨器」
1.24　『北海道考古学会だより』第68号
（1）緊急報告　旧石器発掘ねつ造問題について　（2）「旧石器発掘ねつ造問題」に関する声明　（3）北海道における藤村氏関与遺跡の調査経過等について　（4）2000年12月16日総進不動坂遺跡発掘調査説明会
3.16　『北海道考古学会だより』第69号
（1）2001年度北海道考古学会定期総会のご案内　（2）2001年度北海道考古学会研究大会のご案内
（3）2000年度遺跡報告会実施報告
3.31　『北海道考古学』第37輯（特集：北海道旧石器考古学の諸問題）
［編集委員：林謙作・上野秀一・右代啓視・大島直行・小杉康・長沼孝・西脇対名夫］
B５判　124頁　印刷：北海道図書企画　誌代4,500円送料別

平成13年度（2001.4～2002.3）〔事務局：札幌学院大学〕
4.14　佐藤一夫・斉藤傑両氏より寄付
5.13・14　第39回総会（北海道開拓記念館講堂　出席者31名）
（1）総会　(a) 平成12年度決算報告　収入3,038,931円、支出2,959,581円（繰越金79,350円）(b) 監査報告　(c) 役員改選　（留任）鶴丸俊明、青野友哉、氏江敏文、松田猛、福田友之、畑宏明、小杉康、深澤百合子、長崎潤一　（新任）出穂雅実、田村俊之、高倉純、遠藤龍畝、村田大、倉橋直孝、兼平一志、藤原秀樹、愛場和人、工藤義衛、乾芳弘、森広樹、太田敏量、石川久明　(d) 委員長：鶴丸俊明　副委員長：遠藤龍畝　(e) 監査委員：高橋正勝、石川直章　(f) 会誌編集委員：林謙作、羽賀憲二、田口尚、越田賢一郎、小杉康、中田裕香
（2）研究大会　テーマ「北方文化を探る－ひと・もの・気候・植物から－」
１）基調講演　松村博文「渡来系弥生人の拡散と続縄文時代人」
２）研究発表　(a) 熊木俊朗「最近の調査結果にみる北方文化交流の実態」(b) 右代啓視「北方諸地域における温暖期の存在とその意義」(c) 山田悟郎「大陸から伝播してきた栽培植物」
7.1　『北海道考古学会だより』第70号
（1）2001年度総会および研究大会略報　（2）2000年度事業・決算報告、監査報告　（3）委員改選案、2001年度事業計画・予算案　（4）退会者からのお手紙
7.7　定例研究会　乾哲也「船泊遺跡について」
7.20　北海道考古学会ホームページ開設
7.28　遺跡見学会（白老・伊達方面　参加者83名）

10.6　定例研究会　小野裕子「礼文島オホーツク集団のセチルメント・パターンをめぐる問題」
11.30『北海道考古学会だより』第71号
（1）追悼　菊池俊彦「木村尚俊さんを悼む」（2）2001年度総会運営等について　（3）新十津川町総進不動坂遺跡の発掘調査への対応について　（4）2001年度遺跡報告会のご案内　（5）2001年度遺跡見学会実施報告　（6）『北海道考古学』第38輯の原稿募集について　（7）ホームページについて
12.17 遺跡調査報告会　（北海道大学学術交流会館　参加者95名）
3.9　定例研究会　佐藤剛「野花南周堤墓群について」
3.29『北海道考古学会だより』第72号
（1）2002年度総会・研究大会の開催について　（2）2002年度事業案　（3）2001年度遺跡報告会実施報告　（4）道立埋蔵文化財センター発掘調査成果報告会のご案内
3.31『北海道考古学』第38輯
［編集委員：林謙作・羽賀憲二・田口尚・越田賢一郎・小杉康・中田裕香・高倉純］
B５判、112頁、印刷：北海道図書企画、誌代4,500円送料別

平成14年度（2002.4～2003.3）〔事務局：札幌学院大学〕
4.20　第40回総会（江別市民文化ホール　出席者53名）
（1）総会　（a）平成13年度決算報告　収入2,131,773円、支出2,077,404円（繰越金54,369円）（b）監査報告
（2）研究大会　テーマ「南との交流：土師・擦文・オホーツク」
１）基調講演　三浦圭介「古代における北海道と北日本の交流」
２）研究発表　（a）大谷敏三「『擦文文化期』という時代」（b）秋山洋司「旧琴似川流域の擦文土器について－札幌市K39遺跡第６次調査出土土器を中心に－」（c）田中哲郎「ウサクマイN遺跡について」（d）瀬川拓郎「刻印の地域性からみた日本海交流集団の構成」
5.27『北海道考古学会だより』第73号
（1）北海道考古学会定例研究会のお知らせ　（2）2002年度総会、研究大会報告　（3）2001年度事業・決算報告、監査報告　（4）2002年度事業計画・予算案
6.8　定例研究会　マーク・ハドソン「オホーツク文化の再生産」
8.3　遺跡見学会（千歳・伊達・虻田方面　参加者99名）
9.7　定例研究会　倉橋直孝「発掘調査におけるコンピュータの利用について」
10.31『北海道考古学会だより』第74号
（1）2002年度北海道考古学会遺跡報告会のお知らせ　（2）2002年度遺跡見学会実施報告　（3）定例研究会のお知らせ
11.2　定例研究会　畑宏明「浦幌町平和遺跡軟玉ヒスイ製装身具の報道について」
12.14 遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者△名）
3.15『北海道考古学会だより』第75号
（1）2003年度北海道考古学会研究大会・総会について　（2）会則の一部改正についての提案　（3）2002年度遺跡報告会について　（4）南茅部町埋蔵文化財調査団事務所の被災について　（5）事務連絡
3.31『北海道考古学』第39輯
［編集委員：林謙作・羽賀憲二・田口尚・越田賢一郎・小杉康・中田裕香・高倉純］
B５判　104頁　印刷：北海道図書企画

平成15年度（2003.4～2004.3）〔事務局：北海道大学文学部〕
4.26　第41回総会（北海道大学学術交流会館　出席者73名）
（1）総会　（a）平成14年度決算報告　収入3,066,133円、支出2,225,176円（繰越金840,957円）
（b）平成15年度事業計画・予算案　（c）監査報告　（d）役員改選　（留任）出穂雅実、田村俊之、高倉純、遠藤龍畝、村田大、倉橋直孝、兼平一志、藤原秀樹、愛場和人、工藤義衛、乾芳宏、森広樹、太田敏量、石川久明　（新任）天野哲也、臼杵勲、大谷敏三、加藤邦雄、加藤博文、北沢実、長谷山隆博、福田裕二、藤沼邦彦、森岡健治　（e）会誌編集委員：林謙作・羽賀憲二・田口尚・越田賢一郎・中田裕香　（f）委員長：加藤邦雄　副委員長：遠藤龍畝　（g）監査委員：石川直章、西田茂
（2）研究大会　テーマ「縄文の漆を科学する－漆製品から見た北海道の縄文時代－」
１）基調講演　山田昌久「縄文時代の漆技術が引き継がれないことについて」

２）研究発表　(a) 小林幸雄「北海道における縄文文化の出土漆器～技術的に検討する立場から～」(b) 上屋眞一「カリンバ３遺跡から出土した漆製品」(c) 阿部千春「垣の島B遺跡から出土した漆製品」

4.27　会則の一部改正（会費4,500円→5,000円値上げ、役員３名を超えない数で３期６ヶ年まで継続再任）

6.14　定例研究会　高倉純「北海道の後期旧石器時代」（共催）

8.2　遺跡見学会（小樽・余市・岩内・赤井川方面　参加者120名）

10.4　定例研究会　吉開将人「中国史学史から見た『夏』殷問題」

11.1　定例研究会　福田正宏「2003年度アムール調査から」

11.7　『北海道考古学会だより』第76号

(1) 2003年度研究大会報告　(2) 2003年度総会報告　(3) 2002年度会務報告　(4) 2002年度収支決算報告　(5) 2002年度監査報告・2003年度会務計画　(6) 2003年度予算案　(7) 会則の改正について・委員の改選について　(8) 南茅部町埋蔵文化財事務所の火災に対する支援募金について

11.7　『北海道考古学会だより』第77号

(1) 2003年度北海考古学会遺跡報告会のお知らせ　(2) 2004年度北海道考古学会40周年記念大会のお知らせ　(3) 2003年度遺跡見学会実施報告　(4) 研究会担当からのお知らせ　(5) 事務連絡

12.13　遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者△名）

1.9　森町鷲ノ木５遺跡保護対策特別委員会の設置

委員長：小杉康　委員：野村崇、杉浦重信、大谷敏三、臼杵勲

2.27　『北海道考古学会だより』第78号

(1) 特集　大谷敏三・小杉康「森町鷲ノ木５遺跡の保存問題について」(2) 南茅部町埋蔵文化財事務所の火災に対する支援募金（300,000円）(3) 支援募金に対する礼状

2.28・29　定例研究会 「北アジア調査研究報告会」（共催）

3.31　公開講演会「未来につなぐ文化遺産－鷲ノ木５遺跡ストーンサークルの現状保存の可能性を探る－」

(1) 講演　小林達雄「縄文時代における記念物モニュメント」

(2) 事例報告　(a) 藤田登「鷲ノ木５遺跡とはどんな遺跡か」(b) 小林克「伊勢堂遺跡とその保存」(c) 児玉大成「小牧野遺跡とその保存・活用」

3.31　『北海道考古学』第40輯（『北海道考古学』第40輯記念特集号）

[編集委員：林謙作・羽賀憲二・田口尚・越田賢一郎・小杉康・中田裕香・加藤博文・高倉純]

B５判　198頁　印刷：北海道図書企画

平成16年度（2004.4～2005.3）〔事務局：北海道大学文学部〕

4.24　第42回総会（北海道大学文学部文６講堂　出席者△名）

(1) 総会　(a) 平成15年度決算報告　収入3,678,787円、支出3,658,647円（繰越金20,140円）(b) 監査報告　(c) 会則改正（学生会費3,000円）

(2) 北海道考古学会40周年記念研究大会　テーマ「遺跡とともに－研究と活用－」

１）記念講演　浅川滋雄「遺跡の復元」

２）研究発表　(a) 道教委・道埋文センター「道内重要遺跡」(b) 寺崎康史「ピリカ遺跡」(c) 大島直行「北黄金貝塚」(d) 佐藤和利「オムサロ遺跡」(e) 松崎水穂「勝山館・夷王山墳墓群」(f) 上野秀一「都市部の遺跡」

5.8　遺跡見学会（森・八雲方面　参加者100名）

6.19　定例研究会「中世日本列島北部－サハリンにおける民族形成過程の解明」（共催）

7.12　『北海道考古学会だより』第79号

(1) 大谷敏三「鷲ノ木５遺跡の保存問題の経緯」(2) 2003年度会務・収支決算・監査報告　(3) 2004年度会務計画・予算案　(4) 会則改正（学生会費3,000円）

11.13・14　シンポジウム（定例研究会）「蝦夷からアイヌへ」（共催）

第Ⅰ部会 「古代北海道の蝦夷に関する考古学的検討」

司会：小野裕子　パネリスト：石井淳平・田才雅彦・塚本浩司

報告者：大井晴男・小杉康・鈴木信

第Ⅱ部会(1)「古代東北北部の律令・郡制下の人々と蝦夷のかかわり」(1)

司会：仙庭伸久　パネリスト：大井晴男・熊谷公男・武廣亮平・鈴木信・豊田宏良

報告者：宇部則保

第Ⅱ部会(2)「古代東北北部の律令・郡制下の人々と蝦夷のかかわり」(2)

司会：齋藤淳・沢井玄・簑島栄紀
報告者：天野哲也・斉藤利雄・瀬川拓郎・遠藤巌・三浦圭介・関口明
11.30『北海道考古学会だより』第80号
(1) 2004年度北海道考古学会「遺跡報告会」のご案内　(3) 北海道考古学第41輯寄稿のお願い
(4) 研究会のお知らせ
12.18 遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者△名）
2.22『北海道考古学会だより』第81号
(1) 2005年度総会・研究大会の開催について　(2) 各種委員の改選について　(3) 2004年度遺跡報告会実施報告　(4) 事務連絡
3.31『北海道考古学』第41輯
[編集委員：林謙作・羽賀憲二・田口尚・越田賢一郎・小杉康・中田裕香・加藤博文・高倉純]
B５判　140頁　印刷：北海道図書企画

平成17年度（2005.4～2006.3）〔事務局：北海道大学文学部〕
4.19　第42回総会（北海道大学学術交流会館、出席者72名）
(1) 総会　(a) 平成16年度決算報告　収入2,574,663円、支出2,529,307円（繰越金45,356円）　(b) 平成17年度事業計画・予算案　(c) 監査報告　(d) 会則改正（名称変更、委員長→会長）　(e) 役員改選　（留任）青野友哉、天野哲也、臼杵勲、大谷敏三、加藤博文、北沢実、長谷山隆博、福田裕二、藤沼邦彦　（新任）青木誠、阿部明義、石井淳、大泰司統、柏木大延、川名広文、澤井玄、鈴木琢也、高瀬克範、直江康雄、長町章弘、松田功、守屋豊人　(f) 会長：天野哲也　副会長：大谷敏三　(g) 監査委員：西田茂、高橋和樹
(2) 研究大会　テーマ「遺跡立地を考える」
１）基調講演　佐藤宏之「遺跡立地とは何かー機能・景観・geoarchaeology」
２）研究発表　(a) 山原敏朗「十勝地方の旧石器～縄文草創期の遺跡立地」　(b) 小杉康「北海道における縄文文化の遺跡立地」　(c) 青野友哉「続縄文時代の遺跡立地とその特徴－道央・道南西部」　(d) 藤井誠二「石狩低地帯北部の擦文期の遺跡立地　(e) 道教委文化課「北海道におけるGIS利用について」
5.29　北構保男氏より寄付金（2006.3.22にも）
6.28『北海道考古学会だより』第82号
(1) 2004年度会務・収支決算・監査報告　(2) 2004年度会務計画・予算案　(3) 会則改正　(4) 委員の改選について　(5) 天野哲也「会長就任挨拶」
7.9　定例研究会　「日本文化財科学会第22回大会」（共催）
8.27　遺跡見学会（江別・深川・旭川方面　参加者120名）
11.21『北海道考古学会だより』第83号
(1) 2005年度遺跡調査報告会案内　(2) 2005年度遺跡見学会実施報告
11.25 定例研究会　劉益昌「近年における台湾考古学の新たな展開」
12.17 遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者140名）
1.28　定例研究会　守屋豊人「北海道中央部における恵山期併行の土器研究」
2.14　元委員長　高橋正勝氏逝去
3.15『北海道考古学会だより』第84号
(1) 畑宏明「藤本秀夫先生のご逝去を悼む」　(2) 2006年度総会・研究大会・遺跡見学会の実施について　(3) 2005年度遺跡報告会実施報告　(4) 2005年度第２回定例研究会実施報告
3.31『北海道考古学』第42輯
[編集委員：野村崇・守屋豊人・加藤博文・鈴木信・高倉純・西脇対名夫・宗像公司]
B５判　140頁　印刷：北海道図書企画

平成18年度（2006.4～2007.3）〔事務局：北海道大学文学部〕
4.27　定例研究会　I. シェフコムート「アムール下流域の考古学調査と研究」
5.13　第43回総会（森町公民館　出席者163名）
(1) 総会　(a) 平成17年度決算報告　収入2,547,016円、支出2,202,418円（繰越金344,598円）
(b) 監査報告
(2) 研究大会　テーマ「森町鷲ノ木遺跡の意義・保護・活用を考える」

1）基調講演　水野正好「環状列石と縄文社会の想い」
2）研究発表　(a) 長沼孝「鷲ノ木遺跡の保存と史跡指定」(b) 藤田登「鷲ノ木遺跡の調査と将来構想」
(3) 鷲ノ木遺跡現地見学会

7.4　『北海道考古学会だより』第85号
(1) 2005年度会務・収支決算・監査報告　(2) 2006年度会務計画・予算案　(3) 事務連絡

8.19　定例研究会　佐藤剛「北海道島道央部地域における縄文時代晩期初頭の土器様相について－恵庭市島松５遺跡出土の東三川Ⅰ式土器の型式学的検討から－」

8.26　遺跡見学会（厚真・平取・千歳方面　参加者116名）

11.15『北海道考古学会だより』第86号
(1) 2006年度遺跡報告会のご案内　(2) 鷲ノ木Eyes　藤田登「森町鷲ノ木遺跡調査とこれから－平成18年度範囲確認調査と現指定区域の保存措置－」(3) 2006年度「遺跡見学会」実施報告　(4) 展覧会・研究会などの情報

11.25　定例研究会　中村賢太郎・竹原弘展・石川朗・鈴木茂「釧路市周辺で採取される黒曜石の特徴」

12.9　遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者120名）

2.17　定例研究会　長町章弘「『カリンバコタン』について－旧カリンバ川流域に存在したアイヌ文化期の集落について－」　柏木大延「道内出土の土製支脚について」

2.28　『北海道考古学会だより』第87号
(1) 2007年度研究大会「続縄文時代研究の現在」(2) 2007年度総会の開催について　(3) 学会運営委員の改選　(4) 監査委員の改選　(5) 編集委員の改選　(6) 2006年度遺跡報告会実施報告
(7) 研究例会報告要旨　(8) 定例研究会などのお知らせ　(9) 北海道考古学会の名簿作成についてのお知らせ

3.17　定例研究会　竹内孝「EPMA分析画像解析法を使った土器調査」（共催）

3.31　『北海道考古学』第43輯（特集：遺跡の保存、そして活用）
［編集委員：野村崇・守屋豊人・加藤博文・鈴木信・高倉純・西脇対名夫・宗像公司］
B５判　136頁　印刷：北海道図書企画

平成19年度（2007.4～2008.3）〔事務局：札幌大学文化学部川名研究室〕

4.19　第44回総会（北海道大学学術交流会館、出席者72名）
(1) 総会　(a) 平成18年度決算報告　収入2,733,258円、支出2,552,327円（繰越金180,931円）
(b) 監査報告　(c) 役員改選　（留任）阿部明義、石井淳、大泰司統、柏木大延、川名広文、澤井玄、鈴木琢也、高瀬克範、長町章弘、松田功、守屋豊人　（新任）石井淳平、大橋殻、木山克彦、越田賢一郎、坂梨夏代、嶋井康夫、下野直章、高畠孝宗、平川善祥、深沢百合子、松田宏介　(d) 監査委員　菊池俊彦、高橋和樹　(e) 会誌編集委員　加藤博文、熊木俊朗、鈴木信、野村崇、宗像公司　(f) 会長：川名広文　副会長：越田賢一郎
(2) 研究大会　テーマ「続縄文時代研究の現在」
1）基調講演　辻秀人「続縄文文化と弥生・古墳文化の関係を考える」　2）報告　a) 佐藤剛「続縄文時代の土器研究の現状について」b) 酒井秀治「続縄文時代の石器研究の現状について」(c) 松田宏介「続縄文期における遺構研究の現状と課題」(d) 福田正宏「極東ロシアからみた、続縄文文化とオホーツク文化」

7.17　初代会長　大場利夫氏逝去

7.18　『北海道考古学会だより』第88号
(1) 川名広文「就任にあたって」(2) 2007年度第44回総会略報　(3) 千葉英一「吉崎昌一先生を偲ぶ」(4) 遺跡見学会のご案内　(5) 研究会のお知らせ

7.28　定例研究会　柳澤清一「伊茶仁ふ化場第１遺跡と北方編年体系」

8.4･5　遺跡見学会　「発掘された日本列島速報展とオホーツク遺跡巡り２日間（帯広・陸別・網走・北見方面　参加者42名）

11.15『北海道考古学会だより』第89号
(1) 2007年度遺跡見学会実施報告　(2) 西脇対名夫「奇妙なルジメント」(3) 研究会のお知らせ
(4) 事務連絡

11.17　定例研究会　芝田直人「縄文時代晩期後半の生業と土器編年－江別市対雁２遺跡の調査から－」

12.15　遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者△名）

2.16 定例研究会　阿部明義「赤彩された微隆線土器について－縄文時代後期後半－」 添田雄二「小氷期とアイヌ文化」

3.19 『北海道考古学会だより』第90号
(1) 2008年度研究大会「続縄文文化とは何か」 (2) 2008年度第45回北海道考古学会総会について (3) 2007年度遺跡報告会の実施報告 (4) 2007年度定例研究会開催報告 (5) 報告「占冠原野１遺跡における重機による遺構の掘削とこれに関する本会の対応について」 (6) 訃報　初代会長大場利夫氏

3.31 『北海道考古学』第44輯
[編集委員：野村崇・加藤博文・熊木俊朗・鈴木信・平川善祥・宗像公司・守屋豊人]
B５判　64頁　印刷：北海道図書企画

平成20年度（2008.4～2009.3）〔事務局：札幌大学文化学部川名研究室〕

4.19 第45回総会（札幌大学3002号教室　出席者△名）
(1) 総会 (a) 平成19年度決算報告　収入3,347,421円、支出2,463,487円（繰越金883,934円）(b) 監査報告 (c) 平成20年度事業計画・予算案 (c) 遺跡保護特別委員会・国際交流特別委員会の設置
(2) 研究大会　テーマ「続縄文文化とは何か」
１）基調講演　石川日出志「続縄文文化と弥生文化、鉄器を中心に」 ２）報告 a) 鈴木信「続縄文時代の鉄器について－渡海交易と石器組成の観点から」 b) 高倉純「続縄文時代石器群の変遷と鉄器化との関連」 c) 福井淳一「骨角器からみた続縄文文化の様相」 e) 高橋健「続縄文時代の骨角器：銛頭」

7.1 『北海道考古学会だより』第91号
(1) 2008年度北海道考古学会第45回総会略報 (2) 遺跡見学会のご案内 (3) 研究会のお知らせ

7.12 定例研究会　中澤寛将「日本列島北部における須恵器生産・流通・消費をめぐる諸問題」 布施和洋「北海道島における陶磁器の流通と消費－12世紀～16世紀の北海道島の諸相－」

8.3 遺跡見学会 （千歳・苫小牧・厚真方面　参加者69名）

10.19 北海道考古学会設立45周年講演・座談会開催
(1) 講演　竹田輝雄 (2) 座談会　竹田輝雄・野村崇・出村文理・菊池俊彦

11.13 『北海道考古学会だより』第92号
(1) 遺跡調査報告会のお知らせ (2) 研究会のお知らせ (3) 遺跡見学会報告 (4)「北海道考古学会創設期のころ」報告 (5) 2009年度総会・研究会のお知らせ

11.22 定例研究会　荒山千恵「日本列島における音響発生具の受容と展開」 小林紘一「AMSによる炭素14年代測定」

12.20 遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者100名）

2.8 定例研究会　守屋豊人「続縄文時代竪穴住居の上屋構造」

3.6 『北海道考古学会だより』第93号
(1) 2009年度研究会「擦文文化における地域間交渉・交易」 (2) 2009年度総会について (3) 学会運営委員・監査委員・会誌編集委員の改選・推薦について (4) 2008年度遺跡報告会の実施報告 (5) 2008年度定例研究会開催報告

3.31 『北海道考古学』第45輯
[編集委員：野村崇・加藤博文・熊木俊朗・鈴木信・平川善祥・宗像公司・守屋豊人]
B５判　104頁　印刷：北海道図書企画

平成21年度（2009.4～2010.3）〔事務局：北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室〕

4.26 第46回総会（札幌大学プレアホール　出席者61名）
(1) 総会 (a) 平成20年度決算報告　収入3,413,384円、支出2,167,349円（繰越金1,246,035円）(b) 監査報告 (c) 平成21年度事業計画・予算案 (d) 役員改選 （留任）石井淳平、大橋殻、木山克彦、越田賢一郎、坂梨夏代、嶋井康夫、深沢百合子 （新任）小針大志、佐藤孝雄、佐藤一志、芝田直人、角達之助、奈良智法、高倉純、高橋理、荒山千恵、手塚薫、広田良成、松田宏介、宗像公司、山谷文人 (e) 監査委員　菊池俊彦、羽賀憲二 (f) 会誌編集委員　石川直章・上野秀一・熊木俊朗・仙庭伸久・守屋豊人 (g) 会長：小杉康　副会長：越田賢一郎
(2) 研究大会　テーマ「擦文文化における地域間交渉・交易」

1）瀬川拓郎「擦文文化の展開と交流の諸相」　2）塚本浩司「擦文土器から見た地域間関係」　3）斉藤淳「北奥羽出土の擦文（系）土器について」　4）鈴木琢也「擦文文化の物流」　5）乾芳宏「余市周辺における擦文文化の様相」　6）乾哲也「近年の厚真町の発掘成果」

7.17 『北海道考古学会だより』第94号
(1) 小杉康「就任にあたってのご挨拶」 (2) 2009年度北海道考古学会第46回総会略報　(3) 遺跡見学会のご案内　(4) 研究会のお知らせ

7.26 定例研究会　遠部慎「北海道における炭素14年代測定試料の諸問題－遺跡出土試料を中心に－」

8.23 遺跡見学会　（旭川方面　参加者63名）

9.27 定例研究会　守屋豊人「縄文時代早期における「アルトリ式土器」変遷観の検討」

10.25 定例研究会　札幌稲北高等学校自然科学部「北海道指定史跡『西崎山環状列石』を構成する岩石とその由来について」

11.21 定例研究会　内山幸子「サハリンの動物考古学－オホーツク文化を中心に－」

12.3 『北海道考古学会だより』第95号
(1) 2009年度遺跡見学会報告　(2) 2009年度遺跡調査報告会のご案内　(3) 遺跡見学会のご案内　(4) 定例研究会のお知らせ

12.19 遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者110名）

1.24 定例研究会　村井周三「縄紋時代中期と後期の境界－東北地方北部から道東地域を対象として－」

2.28 定例研究会　荒山千恵「出土木製品の製作技術について」

3.15 『北海道考古学会だより』第96号
(1) 2010年度総会・研究大会の開催について　(2) 2009年度遺跡調査報告会の実施報告　(3) 2009年度定例研究会開催報告

3.27 定例研究会　「札幌近郊大学考古学専攻の卒業論文・修士論文発表会」（木村麻衣子・勢村茉莉子・山口響［北大］、佐伯春輔［札学院大］、今泉和也［北大大学院］

3.31 『北海道考古学』第46輯（特集：続縄文文化の特色）
［編集委員：上野秀一・石川直章・熊木俊朗・仙庭伸久・守屋豊人・手塚薫・松田宏介］
B５判　206頁　印刷：北海道図書企画

平成22年度（2010.4～2011.3）〔事務局：北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室〕

4.24 第47回総会（北海道大学学術交流会館　出席者40名）
(1) 総会　(a) 平成21年度決算報告　収入3,659,489円、支出2,326,977円（繰越金1,332,512円）
(b) 監査報告
(2) 研究大会　テーマ「オホーツク文化とは何か」
1）基調講演　天野哲也「オホーツク文化とは何か」　2）研究発表　(a) 臼杵勲「アムール流域・サハリンとオホーツク文化」 (b) 熊木俊朗「北海道東部のオホーツク文化集落について－最近の調査成果から－」 (c) 石田肇「オホーツク文化人骨の形態特徴と生活誌復元」 (d) 増田隆一「遺伝子からみたオホーツク文化人の特徴と起源」

5.30 定例研究会　高橋理「出土動物からみるアイヌの儀礼」

6.27 定例研究会　鈴木建治「旧石器時代における住居構造の復元に関する基礎的研究」

7.16 『北海道考古学会だより』第97号
(1) 2010年度北海道考古学会第47回総会略報　(2) 2010年度北海道考古学会研究大会報告　(3) 遺跡見学会のご案内　(4) 研究会のお知らせ

7.25 定例研究会　佐藤一志「戦前における江別市内の発掘調査資料」

8.21･22 遺跡見学会　（函館・木古内・七飯方面　参加者63名）

10.10 定例研究会　榊田朋広「トビニタイ式土器研究の現状と課題」

10.31 定例研究会　札幌稲北高校自然科学部地学班「余市町栄町７遺跡における砂質堆積物の特徴から古環境を探る」

11.28 定例研究会　清水香「擦文・アイヌ期文化の出土木製品における和産物について」

12.3 『北海道考古学会だより』第98号
(1) 2010年度遺跡見学会実施報告　(2) 2010年度遺跡報告会のお知らせ　(3) 定例研究会のお知らせ

12.19 遺跡調査報告会（北海道大学学術交流会館　参加者△名）

1.30 定例研究会　坂本尚史「ホロカ沢Ⅰ遺跡出土の幌加型細石刃核石器群の様相」

2.21 『北海道考古学会だより』第99号

(1) 2011年度総会・研究大会の開催について　(2) 2010年度遺跡報告会の実施報告　(3) 2010年度定例研究会開催報告　(4) 西脇対名夫　「『土面』の唇の孔」

2.27 定例研究会　卒論・修論発表会　山際昌久（北大）

3.27 定例研究会　西田茂「石狩低地帯南部における遺跡の形成と水位の変動」

3.31 『北海道考古学』第47輯
［編集委員：上野秀一・石川直章・熊木俊朗・仙庭伸久・守屋豊人・手塚薫・松田宏介］
B５判　116頁　印刷：北海道図書企画

平成23年度（2011.4～2012.3）〔事務局：北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室〕

4.23 第48回総会（北海道大学学術交流会館　出席者43名）
(1) 総会　(a) 平成22年度決算報告　収入4,510,119円、支出2,304,120円（繰越金2,205,999円）(b) 監査報告　(c) 平成23年度事業計画・予算案　(d) 役員改選　（留任）荒山千恵、小杉康、小針大志、佐藤孝雄、佐藤一志、芝田直人、角達之助、奈良智法、高倉純、高橋理、広田良成、宗像公司、山谷文人　（新任）青野友哉、乾芳宏、内山幸子、大谷敏三、関根達人、野村祐一、高橋勇人　(e) 監査委員　羽賀憲二、千葉英一　(f) 会誌編集委員　阿部明義、石川直章・上野秀一・仙庭伸久・守屋豊人　(g) 会長：小杉康　副会長：大谷敏三
(2) 研究大会　テーマ「北海道の縄文文化研究の今」
１）研究発表　(a) 山原敏朗「旧石器から縄文へ－大正３遺跡の評価－」(b) 福田裕二「北海道における盛土遺構研究の現状」(c) 石橋孝夫「北海道縄文人によるサケ資源の集約的利用の確立・展開－石狩紅葉山49号遺跡の評価－」(d) 西脇対名夫「形態学的な方法－“謎”の側縁有溝石器の場合－」

6.26 定例研究会　渡辺陽子「樹種同定から明らかにされる竪穴住居建築材の変遷」 岡村聡「北海島の縄文～続縄文遺跡から出土する緑色玉類の多様性」

7.20 『北海道考古学会だより』第100号
(1) 小杉康「就任にあたって」(2) 2011年度北海道考古学会第48回総会略報　(3) 2011年度北海道考古学会研究大会報告　(4) 遺跡見学会のご案内　(5) 月例研究会のお知らせ

7.31 月例研究会　上屋眞一「ユカンボシE11遺跡の調査－矢柄と一括石鏃について－」 菅野修広「あの世の認識－アフンルパルから考える埋没途中竪穴住居について－」

8.28 遺跡見学会（登別・伊達・洞爺湖方面　参加者55名）

9.25 月例研究会　藪下詩乃「彫器の使用痕分析－美利加Ⅰ遺跡石器群の事例－」 役重みゆき「蘭越型細石刃石器群の技術構造と適応戦略」

10.30 月例研究会　増田隆一「北海道のDNA考古学：その発展性と課題」

11.18 『北海道考古学会だより』第101号
(1) 2011年度遺跡見学会実施報告　(2) 2011年度遺跡報告会のお知らせ　(3) 月例研究会のお知らせ　(4) 北海道考古学会創立50周年に向けて　(5) 大谷敏三「北海道考古学会の歩み(1)」

11.27 月例研究会　林勇介「擦文文化のおける竪穴住居跡の様相－道東の遺跡を事例に－」 簑島栄紀「平安日本と擦文社会」

12.17 遺跡調査報告会（北海道大学人文科学総合研究棟　参加者△名）

1.29 月例研究会　高瀬克範「カムチャッカ半島南部出土土器の年代」 百瀬響「河野広道の北方文化論と時代区分（分類法）」

2.26 月例研究会　卒論・修論発表会（５編）

3.21 『北海道考古学会だより』第102号
(1) 2012年度総会・研究大会の開催について　(2) 2011年度遺跡調査報告会実施報告　(3) 月例報告会のお知らせ　(4) 大谷敏三「北海道考古学会の歩み(2)」

3.25 月例研究会　村本周三「北海道東部地域における縄紋時代中後期集落と平地住居」 鈴木建治「シベリアにおける細石刃技術出現以前の様相－OIS３段階の石刃小型化現象ついて－」

3.31 『北海道考古学』第48輯
［編集委員：上野秀一・石川直章・守屋豊人・仙庭伸久・阿部明義・内山幸子・高橋理］
B５判　96頁　印刷：北海道図書企画

平成24年度（2012.4～2013.3）〔事務局：北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室〕

5.12 第49回総会（北海道大学学術会館　出席者35名）

(1) 総会　(a) 平成23年度決算報告　収入4,209,304円、支出1,923,308円（繰越金2,285,996円）
(b) 監査報告　(c) 平成24年度事業計画・予算案
(2) 研究大会　テーマ『アイヌ文化期の「集落」研究』
1）事例発表　(a) 森岡健治「平取町におけるアイヌ集落構造」(b) 三浦正人「発掘された千歳・恵庭両市域のコタン跡」(c) 乾哲也「厚真町におけるアイヌ文化期の集落跡」(d) 松崎水穂「上ノ国町とその周辺のアイヌ資料」(e) 小野哲也「道東についての予察－標津遺跡群を題材に－」(f) 小林孝二「建築学から見たアイヌ文化の建築文化」

6.30 月例研究会　寺崎康史「北海道における江戸時代初期の砂金採掘跡と金山跡について

7.18 『北海道考古学会だより』第103号
(1) 2012年度北海道考古学会総会略報　(2) 2011年度北海道考古学会研究大会報告　(3) 遺跡見学会のご案内　(4) 2011年度月例研究会の実施報告　(5) 月例研究会のお知らせ　(6) 大谷敏三「北海道考古学会の歩み(3)」

7.28 月例研究会　大坂拓「本州東北部弥生社会の変動と北海道」 大塚宜明「北海道における旧石器文化のはじまり－不定形石器群の位置づけを通じて－」

8.26 遺跡見学会（厚真町方面　参加者40名）

9.29 月例研究会　三谷智広「近世アイヌ文化期の貝塚から見る生業構造の検討」 清水香「アイヌ文化期の塗椀について－出土資料を中心として－」

10.27 月例研究会　深瀬均「日本列島における縄文時代人の体形の地域差とその生態地理学的意義」 森久大「道北の押型文土器について」

11.15 『北海道考古学会だより』第104号
(1) 2012年度遺跡見学会実施報告　(2) 宇田一恵　参加体験記「遺跡見学会に参加して」(3) 2012年度遺跡調査報告会のお知らせ　(4) 月例研究会のお知らせ　(5) 北海道考古学会の歩み(4)

11.24 月例研究会　柏木大廷「古代東北・北海道における土製支脚の分布から考える集団移動について」荒山千恵「漂流ココヤシと土製品」

12.22 遺跡調査報告会（北海道大学人文科学総合研究棟　参加者△名）

1.26 月例研究会　坂口隆「周堤墓出現の背景を探る」

2.27 『北海道考古学会だより』第105号
(1) 2013年度総会・研究会の開催について　(2) 2012年度遺跡調査報告会の実施報告　(3) 2012年度月例研究会の開催報告　(4) 野村崇　北海道考古学会の歩み(5)「北海道考古学会創立の思い出（その１）」

3.3 月例研究会　卒論・修論発表会

3.30 月例研究会　加藤孝幸「剥片石器に多用される珪質頁岩の成因と供給源推定の試み」

3.31 『北海道考古学』第49輯
[編集委員：上野秀一・石川直章・守屋豊人・仙庭伸久・阿部明義・内山幸子・高橋理]
B５判　141頁　印刷：北海道図書企画

平成25年度（2013.4～2014.3）〔事務局：伊達市噴火湾文化研究所〕

5.12 第50回総会（北海道大学学術会館　出席者95名・委任状含む）
(1) 総会　(a) 平成24年度決算報告　収入4,364,583円、支出2,206,979円（繰越金2,157,604円）
(b) 監査報告　(c) 平成25年度事業計画・予算案　(d) 役員改選　（留任）大谷敏三、青野友哉、内山幸子、乾芳宏、野村祐一、高橋勇人、関根達人　（新任）大島直行、酒井秀治、榊田明広、坂本尚史、鈴木将太、高瀬克範、田代雄介、西脇対名夫、村本周三、三谷智広、森久大、林勇介、出穂雅実　(e) 監査委員：千葉英一、園部真幸　(f) 会誌編集委員：臼杵勲、越田賢一郎、阿部明義、石橋孝夫、角田隆志　(g) 会長：大島直行　副会長：大谷敏三
(2) 研究大会　テーマ『先史時代の植物利用－栽培植物から見た考古学研究』
１）基調講演　山田悟郎「栽培植物研究の現状」　２）発表　(a) 椿坂恭代「フォローテーション作業を通してわかってきたこと」(b) 小畑弘己「圧痕法による先史古代の植物栽培と人々のくらし－三内丸山遺跡における圧痕法調査とその分析を通じて」(c) 高瀬克範「レプリカ法からみた日本列島東部縄文晩期～弥生・続縄文文化期の栽培植物利用」(d) 伊藤由美子「栽培植物としてのウルシ－青森県内遺跡の出土例から」

7.10 『北海道考古学会だより』第106号
(1) 大島直行「就任にあたって」(2) 2013年度北海道考古学会第50回総会略報　(3) 2013年度北

海道考古学会研究大会報告　(4) 遺跡見学会のご案内　(5) 月例研究会のお知らせ　(6) 野村崇 北海道考古学会の歩み(6)「北海道考古学会創立の頃の思い出（その２）」

7.20 月例研究会　田代雄介「むかわ町穂別富内123番地出土の鉄鉾について」

8.31 遺跡見学会（余市町方面　参加者△名）

9.21 月例研究会　大島直行「「なぜストーンサークルは円いのか」をレビューする」

10.5 北海道考古学会創立50周年記念講演会『北の遺跡を発掘する－北海道考古学の成果と展望』
基調講演１　大谷敏三「キウス周堤墓群について」 小杉康「列島北東域縄文文化後半期の地域社会とキウス周堤墓群」
基調講演２　米村衛「モヨロ貝塚について」 熊木俊朗「最寄貝塚の学史的評価と最近の成果」
ポスター発表　(1) 長沼孝「遠軽町白滝遺跡群」(2) 山原敏朗「帯広市大正３遺跡」(3) 阿部千春「函館市南茅部縄文遺跡群」(4) 藤澤隆史「礼文町船泊遺跡」(5) 鈴木信「恵庭市西島松５遺跡」(6) 守屋豊人「札幌市K39遺跡」(7) 稲垣和幸「江別市江別古墳群」(8) 高畠孝宗「枝幸町目梨泊遺跡」(9) 宮本雅通「今金町ピリカ遺跡」(10) 高橋穀「森町鷲ノ木遺跡」(11) 石川朗「釧路市東釧路貝塚」(12) 乾芳宏「フゴッペ洞窟」(13) 武田修「北見市常呂川川口遺跡」(14) 小野哲也「標津町標津遺跡群」(15) 皆川洋一「奥尻町青苗砂丘遺跡」(16) 森岡健治「平取町二風谷遺跡群」(17) 野村崇・出村文理・高瀬克範・平川善祥「北海道考古学50年の歩み」

10.19 月例研究会　青野友哉「弥生人と続縄文人の長距離交流の実態（予察）－イモガイ製貝輪の年代的検討－」

11.10『北海道考古学会だより』第107号
(1) 2013年度遺跡見学会実施報告　(2) 矢野悦子　参加体験記「遺跡見学会に参加して」(3) 北海道考古学会創立50周年記念講演会実施報告　(4) 遠藤龍畝「記念講演会『北の遺跡を発掘する－北海道考古学の成果と展望－』を終えて」(5) 月例研究会の案内　(6) 野村崇　北海道考古学会の歩み(7)「北海道考古学会創立の頃の思い出（その３）」

11.16 月例研究会　冨樫那美氏「副葬土器を通してみた北海道における縄文時代晩期と続縄文時代前半期の墓制」

12.14 遺跡調査報告会（北海道大学人文科学総合研究棟　参加者△名）

1.25 月例研究会　高倉純氏「後北B～C１期の遺跡形成と石器群」 三谷智広「近世アイヌ文化期における貝塚機能の推定」

2.15 月例研究会　永谷幸人氏「近世アイヌ文化期のウスコタン－有珠湾周辺遺跡の遺構変遷にみる人々の暮らしと災害の影響－」 大坂拓「本州島東北部における「続縄文人南下」ルートの変動とその背景」

3.3 『北海道考古学会だより』第108号
(1) 2014年度総会・研究会の開催について　(2) 2013年度遺跡調査報告会の実施報告　(3) 月例研究会のお知らせ

3.15 月例研究会　卒論・修論発表会

3.31 『北海道考古学』第50輯
［編集委員：臼杵勲、越田賢一郎、阿部明義、石橋孝夫、角田隆志・内山幸子・西脇対名夫］
B５判　208頁　印刷：北海道図書企画

付　歴代会長・委員長　（会長1963～1978・2005～、委員長1979～2004　会計年度による）

1963～1978（昭和38～昭和53）	大場　利夫	1995～1998（平成７～平成10）	高橋　正勝
1979～1980（昭和54～昭和55）	石附喜三男	1999～2002（平成11～平成14）	鶴丸　俊明
1981～1982（昭和56～昭和57）	林　　謙作	2003～2004（平成15～平成16）	加藤　邦雄
1983～1986（昭和58～昭和61）	野村　　崇	2005～2006（平成17～平成18）	天野　哲也
1987～1988（昭和62～(昭和63）	佐藤　一夫	2007～2008（平成19～平成20）	川名　広文
1989～1990（平成元～平成２）	鶴丸　俊明	2009～2012（平成21～平成24）	小杉　　康
1991～1994（平成３～平成６）	木村　英明	2013（平成25）～	大島　直行

入退会者のお知らせ

≪新入会員≫　※五十音別・敬称略
　阿戸正広（札幌市）、吉田端志（札幌市）
≪退会者≫　※五十音別・敬称略
　因幡勝雄（岩見沢市）、齊藤　岳（青森県）

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般・大学院生）5,000円　（学部学生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌第50輯の訂正について

野村崇氏の論考中、写真１のキャプションに誤りがありました。訂正用のシールを同封いたしましたので、各自でお貼りいただけますよう、お願い申し上げます。

会誌第51輯の原稿を募集しています

『北海道考古学』第51輯（2015年３月刊行）へのご投稿をお待ちしております。原稿の締め切り日は下記のとおりですが、投稿を希望する方は、編集の都合上、10月31日(金)までに会誌編集委員会事務局まで連絡をお願いいたします。

原稿の分量や体裁については、2012年冬に実施した会誌に関するアンケート結果に基づき、一部変更した箇所があります。最新の情報は学会ホームページをご参照ください。アンケート結果に対する検討内容や投稿規定の変更点については、次号のだよりで詳しく報告する予定です。

原稿締め切り日　2014年12月25日(木)（必着）

会誌編集委員会事務局　〒069-8555　江別市文京台11
札幌学院大学　臼杵研究室
TEL　：(011) 386-8111
E-mail：usu@sgu.ac.jp

その他

〔特別委員会について〕

今年度特別委員会について以下のように決定しましたのでご報告いたします。

遺跡保護特別委員会

委員長：熊木俊朗、２号委員：青野友哉

北海道考古学会だより　第109号　2014年７月14日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒052-0031　北海道伊達市館山町21-5
伊達市噴火湾文化研究所内　北海道考古学会事務局
TEL　：(0142)21-5050
FAX　：(0142)22-5445
E-mail：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668-1131